

(様式第10)

2京医病第150号
令和2年10月2日

厚生労働大臣 田村 憲久 様

京都府公立大学法人
理事長 金田 章裕

京都府立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和元年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上る梶井町4 6 5
氏 名	京都府公立大学法人

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

京都府立医科大学附属病院

3 所在の場所

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上る梶井町4 6 5	電話(075) 251-5111
-----------------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	☒ 有 ・ ☐ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
① 呼吸器内科	② 消化器内科
③ 循環器内科	④ 腎臓内科
⑤ 神経内科	⑥ 血液内科
⑦ 内分泌内科	⑧ 代謝内科
⑨ 感染症内科	⑩ アレルギー疾患内科またはアレルギー科
⑪ リウマチ科	
診療実績	
「神経内科」の診療内容は脳神経内科で提供している。	
「感染症内科」の診療内容は内科で提供している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	☒ 有 ・ ☐ 無
外科と組み合わせた診療科名	
① 呼吸器外科	② 消化器外科
③ 乳腺外科	④ 心臓外科
⑤ 血管外科	⑥ 心臓血管外科
⑦ 内分泌外科	⑧ 小児外科
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科	② 小児科	③ 整形外科	④ 脳神経外科	⑤ 皮膚科
⑥ 泌尿器科	⑦ 産婦人科	⑧ 産科	⑨ 婦人科	⑩ 眼科
⑪ 耳鼻咽喉科	⑫ 放射線科	⑬ 放射線診断科	⑭ 放射線治療科	⑮ 麻酔科
⑯ 救急科				

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	☒ 有 ・ ☐ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 小児歯科	2 矯正歯科
3 口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 移植外科	2 小児心臓血管外科	3 形成外科	4 リハビリテーション科	5 病理診断科
6 脳神経内科	7 内分泌・糖尿病・代謝内科	8 内分泌・乳腺外科	9 精神科・心療内科	10 救急医療科
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
118 床	床	54 床	床	893 床	1,065 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	263 人	315 人	572.7 人	看護補助者	38 人	診療エックス線技師	人
歯科医師	5 人	23.00 人	28.0 人	理学療法士	17 人	臨床検査技師	70 人
薬剤師	60 人	4.83 人	64.8 人	作業療法士	6 人	衛生検査技師	人
保健師	人	0.00 人	0.0 人	視能訓練士	12 人	その他	人
助産師	25 人	0.00 人	25.0 人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	709 人	46.7 人	755.7 人	臨床工学士	21 人	医療社会事業従事者	2 人
准看護師	人	0.00 人	0.0 人	栄 養 士	3 人	その他の技術員	13 人
歯科衛生士	9 人	0.00 人	9.0 人	歯科技工士	2 人	事 務 職 員	236 人
管理栄養士	9 人	5.21 人	14.2 人	診療放射線技師	57 人	その他の職員	2 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	81 人	眼科専門医	21 人
外科専門医	69 人	耳鼻咽喉科専門医	11 人
精神科専門医	9 人	放射線科専門医	21 人
小児科専門医	25 人	脳神経外科専門医	10 人
皮膚科専門医	10 人	整形外科専門医	24 人
泌尿器科専門医	14 人	麻酔科専門医	25 人
産婦人科専門医	24 人	救急科専門医	8 人
合 計			352 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (夜久 均) 任命年月日 平成 30 年 4 月 1 日

平成17、18、19、20年度 医療安全管理部長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	592.1人	3.5人	595.6人
1日当たり平均外来患者数	1,271.2人	121.4人	1,392.6人
1日当たり平均調剤数	1,308.9 剤		
必要医師数	138.0人		
必要歯科医師数	8.0人		
必要薬剤師数	20.0人		
必要（准）看護師数	345.0人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施 設 名	床面積	主要構造	設 備	概 要
集中治療室	328.10 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	病 床 数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	15 床 ☒ 有 ・ ☐ 無 ☒ 有 ・ ☐ 無 ☒ 有 ・ ☐ 無 心電計 心細動除去装置 ペースメーカー ☒ 有 ・ ☐ 無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 [移動式の場合] 台 数	181.70 m ² m ² 9 台	病床数 病床数	9 床 床
医 薬 品 情報管理室	[専用室の場合] 床面積 [共用室の場合] 共用する室名	37.00 m ²		
化学検査室	211.00 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析装置、免疫自動分析装置、検体前処理装置、全自動グリコヘモグロビン測定装置、血糖検査機器、多項目自動血球分析装置、凝固検査機器、全自動細胞解析装置
細菌検査室	99.00 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	安全キャビネット、全自動血液培養検査装置、細菌同定検査装置、薬剤感受性検査装置、抗酸菌遺伝子検査装置、抗酸菌液体培養検査装置、
病理検査室	284.00 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	脱脂脱水包埋装置、自動染色機、クライオスタット、硬組織用切断機、自動封入機、顕微鏡システム、画像データベース、バーチャルスライドシステム
病理解剖室	75.00 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	L字形ステンレス解剖台、写真撮影装置、ディープフリーザー、消毒装置、マクロ標本棚、体液吸引装置、脱脂脱水包埋装置
研 究 室	3,792.00 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	核磁気共鳴装置、スペクトロメーター、画像解析装置、遠心器、ミクロトーム、光度計、血液分析装置
講 義 室	616.00 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数 4	室 収容定員 420 人
図 書 室	1,080.00 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数 27	室 蔵書数 14,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹 介 率		83.50 %	逆 紹 介 率	76.70 %
算出根拠	A：紹 介 患 者 の 数		16,211 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		18,084 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		3,484 人	
	D：初 診 の 患 者 の 数		23,583 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
松村 由美	京都大学医学部附属病院	○	特定機能病院の医療安全管理体制に精通している。	☐ 有 ・ ☒ 無	1
平野 哲郎	立命館大学法科大学院法務研究科		法律研究者として関係の法律に精通している。	☐ 有 ・ ☒ 無	1
佐藤 恵子	京都大学医学部附属病院		生命倫理学の観点から医療問題に精通している。	☐ 有 ・ ☒ 無	1
秋篠 憲一			本院の患者として医療を受ける者の代表	☐ 有 ・ ☒ 無	2
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	☒ 有 ・ ☐ 無
委員の選定理由の公表の有無	☒ 有 ・ ☐ 無
公表の方法	
京都府公立大学法人のホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
骨髄細胞移植による血管再生療法	0人
腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	0人
泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	2人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	8人
角膜ジストロフィーの遺伝子解析	6人
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	22人
陽子線治療	26人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
パクリタキセル静脈内投与及びカルボプラチン腹腔内投与の併用療法	0人
マルチプレックス遺伝子パネル検査	0人
自家骨髄単核球移植による下肢血管再生治療	9人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
3	球脊髄性筋萎縮症	56	ベーチェット病	63
33	筋萎縮性側索硬化症	57	特発性拡張型心筋症	41
1	脊髄性筋萎縮症	58	肥大型心筋症	3
2	原発性側索硬化症	59	拘束型心筋症	1
14	進行性核上性麻痺	60	再生不良性貧血	22
98	パーキンソン病	61	自己免疫性溶血性貧血	2
6	大脳皮質基底核変性症	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
0	ハンチントン病	63	特発性血小板減少性紫斑病	43
0	神経有棘赤血球症	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
6	シャルコー・マリー・トゥース病	65	原発性免疫不全症候群	5
71	重症筋無力症	66	IgA 腎症	81
0	先天性筋無力症候群	67	多発性嚢胞腎	35
59	多発性硬化症／視神経脊髄炎	68	黄色靱帯骨化症	15
21	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	69	後縦靱帯骨化症	55
4	封入体筋炎	70	広範脊柱管狭窄症	10
0	クロー・深瀬症候群	71	特発性大腿骨頭壊死症	59
7	多系統萎縮症	72	下垂体性ADH分泌異常症	6
44	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
5	ライソゾーム病	74	下垂体性PRL分泌亢進症	2
0	副腎白質ジストロフィー	75	クッシング病	2
11	ミトコンドリア病	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
12	もやもや病	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	14
4	プリオン病	78	下垂体前葉機能低下症	37
0	亜急性硬化性全脳炎	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
0	進行性多巣性白質脳症	80	甲状腺ホルモン不応症	0
10	HTLV-1関連脊髄症	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	9
0	特発性基底核石灰化症	82	先天性副腎低形成症	0
10	全身性アミロイドーシス	83	アジソン病	0
0	ウルリッヒ病	84	サルコイドーシス	64
1	遠位型ミオパチー	85	特発性間質性肺炎	7
0	ベスレムミオパチー	86	肺動脈性肺高血圧症	26
0	自己食空腔性ミオパチー	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
0	シュワルツ・ヤンベル症候群	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	21
21	神経線維腫症	89	リンパ脈管筋腫症	1
11	天疱瘡	90	網膜色素変性症	14
2	表皮水疱症	91	バッド・キアリ症候群	0
12	膿疱性乾癬(汎発型)	92	特発性門脈圧亢進症	0
15	スティーヴンス・ジョンソン症候群	93	原発性胆汁性肝硬変	41
8	中毒性表皮壊死症	94	原発性硬化性胆管炎	2
15	高安動脈炎	95	自己免疫性肝炎	15
10	巨細胞性動脈炎	96	クローン病	98
14	結節性多発動脈炎	97	潰瘍性大腸炎	244
34	顕微鏡的多発血管炎	98	好酸球性消化管疾患	3
14	多発血管炎性肉芽腫症	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
18	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
19	悪性関節リウマチ	101	腸管神経節細胞減少症	0
19	パージャール病	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	0
6	原発性抗リン脂質抗体症候群	103	CFC症候群	0
244	全身性エリテマトーデス	104	コステロ症候群	0
106	皮膚筋炎／多発性筋炎	105	チャージ症候群	0
88	全身性強皮症	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
36	混合性結合組織病	107	全身型若年性特発性関節炎	9
26	シェーグレン症候群	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
12	成人スチル病	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
3	再発性多発軟骨炎	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	8
113	筋ジストロフィー	5	163	特発性後天性全身性無汗症	2
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	2
118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	3
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	9	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ビッカーstaff脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	1	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	1	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	2
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	1	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	5	208	修正大血管転位症	2
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	2
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	3	262	原発性高カイロミクロン血症	1
215	ファロー四徴症	2	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	2	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	2	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	47	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	18
224	紫斑病性腎炎	3	272	進行性骨化性線維異形成症	1
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	2
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	2
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	4
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	1	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	6
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	1	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	23

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	1	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	1	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	3
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	3
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算1
・歯科外来診療環境体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算2
・歯科診療特別対応連携加算	・データ提出加算
・(一般)特定機能病院入院基本料 7対1	・入退院支援加算
・(結核)特定機能病院入院基本料 7対1	・精神疾患診療体制加算
・超急性期脳卒中加算	・精神科急性期医師配置加算
・診療録管理体制加算1	・特定集中治療室管理料2
・医師事務作業補助体制加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料
・急性期看護補助体制加算	・小児入院医療管理料2
・看護配置加算	・緩和ケア病棟入院料1
・看護補助加算	・精神科急性期治療病棟入院料1
・重症者等療養環境特別加算	・救急医療管理加算
・無菌治療室管理加算1	・地域医療体制確保加算
・無菌治療室管理加算2	
・緩和ケア診療加算	
・精神科応急入院施設管理加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・摂食障害入院医療管理加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・後発医薬品使用体制加算1	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・精密触覚機能検査
・糖尿病合併症管理料	・骨髓微小残存病変量測定
・がん性疼痛緩和指導管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・がん患者指導管理料イ	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・がん患者指導管理料ロ	・検体検査管理加算(IV)
・がん患者指導管理料ハ	・国際標準検査管理加算
・外来緩和ケア管理料	・遺伝カウンセリング加算
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・糖尿病透析予防指導管理料	・胎児心エコー法
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・院内トリアージ実施料	・ヘッドアップティルト試験
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算	・長期継続頭蓋内脳波検査
・外来放射線照射診療料	・脳波検査判断料1
・ニコチン依存症管理料	・神経学的検査
・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談体制充実加算	・補聴器適合検査
・がん治療連携計画策定料	・ロービジョン検査判断料
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・コンタクトレンズ検査料1
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・小児食物アレルギー負荷検査
・薬剤管理指導料	・内服・点滴誘発試験
・医療機器安全管理料1	・画像診断管理加算1
・医療機器安全管理料2	・遠隔画像診断
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・冠動脈CT撮影加算
・遺伝学的検査	・心臓MRI撮影加算
・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算

(様式第2)

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・外来化学療法加算1	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・無菌製剤処理料	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・羊膜移植術
・がん患者リハビリテーション料	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・リンパ浮腫複合的治療料	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・認知療法・認知行動療法1	・網膜再建術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・人工中耳植込術
・医療保護入院等診療料	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・口腔粘膜処置	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・レーザー機器加算	・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
・硬膜外自家血注入	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)
・人工腎臓	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・手術用顕微鏡加算	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・う蝕歯無痛の窩洞形成加算	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・CAD/CAM冠	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・手術時歯根面レーザー応用加算	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
・歯科技工加算1及び2	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・センチネルリンパ節加算	・胸腔鏡下弁形成術

(様式第2)

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・経カテーテル大動脈弁置換術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・胸腔鏡下弁置換術	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的僧帽弁クリップ術	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・同種死体腎移植術
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・生体腎移植術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	・膀胱水圧拡張術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・補助人工心臓	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等	・腹腔鏡下仙骨腔固定術
・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・体外衝撃波胆石破碎術	・輸血管理料 I
・腹腔鏡下肝切除術	・コーディネート体制充実加算
・生体部分肝移植術	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・同種死体肝移植術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・体外衝撃波膀胱石破碎術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・腹腔鏡下膀胱腫瘍摘出術	・歯周組織再生誘導手術
・腹腔鏡下膀胱体尾部腫瘍切除術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・同種死体膀胱移植術、同種死体膀胱腎移植術	・歯根端切除手術の注3

(様式第2)

施設基準の種類	施設基準の種類
・麻酔管理料(Ⅰ)	・角膜ジストロフィー遺伝子検査
・麻酔管理料(Ⅱ)	・先天性代謝異常症検査
・放射線治療専任加算	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・外来放射線治療加算	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・高エネルギー放射線治療	・単線維筋電図
・1回線量増加加算	・黄斑局所網膜電図
・強度変調放射線治療(IMRT)	・全視野精密網膜電図
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・経気管支凍結生検法
・定位放射線治療	・連携充実加算
・粒子線治療	・療養生活環境整備指導加算
・粒子線治療適応判定加算	・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
・粒子線治療医学管理加算	・椎間板内酵素注入療法
・保険医療機関間の連携による病理診断	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
・病理診断管理加算2	・角膜移植術(内皮移植加算)
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・口腔病理診断管理加算1	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・歯科矯正診断料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
・ウイルス疾患指導料	・不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・がん患者指導管理料ニ	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・小児運動器疾患指導管理料	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・婦人科特定疾患治療管理料	・腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腎代替療法指導管理料	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・精神科退院時共同指導料1及び2	・同種クリオプレシピテート作製術
・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料	
・BRCA1/2遺伝子検査	
・がんゲノムプロファイリング検査	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	・
・角膜ジストロフィーの遺伝子解析	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	192回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 34例 / 剖検率 6.7%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
嚥下障害に対するconnectome modifying therapyの開発	山脇 正永	総合診療科	3,763,934	補○ 委	文部科学省
腸内フローラをターゲットとした新規がん悪液質治療法の開発	石川 剛	消化器内科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
十二指腸粘膜バリアを標的とした機能性ディスペプシア治療薬開発に向けた基盤研究	福居 顕文	消化器内科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
Wnt5aペプチドによる腸管炎症抑制作用に関する検討	内山 和彦	消化器内科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
SSA/Pにおける腸内フローラの解析	稲田 裕	消化器内科	910,000	補○ 委	文部科学省
腸管抗原提示細胞によるサイトカイン誘導と腸炎制御メカニズムの解明	春里 暁人	消化器内科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
Tolloid like 1遺伝子多型のNAFLDの病態における意義	瀬古 裕也	消化器内科	780,000	補○ 委	文部科学省
ヒトインフルエンザウイルスによる腸管感染の証明とメカニズムの解明	廣瀬 亮平	消化器内科	1,950,000	補○ 委	文部科学省
温度感受性受容体を介した消化管蠕動制御の分子機構の解明と機能性消化管障害への応用	井上 健	消化器内科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
メタゲノムおよびメタボローム解析によるピロリ除菌後胃癌診断システムの開発	土肥 統	消化器内科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
分子シャペロンAPG-2による非アルコール性脂肪性疾患の制御と、その機序に基づく疾患予後評価法、治療法の開発	伊藤 義人	消化器内科	14,910,000	補 委○	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
機能性野菜を用いた腸内フローラ解析による生体恒常性維持効果の実証研究	内藤 裕二	消化器内科	38,000,000	補 委○	国立研究開発 法人農業・食品 産業技術総合 研究機構
腸内細菌叢からみた過敏性腸症候群の病態解明	鎌田 和浩	消化器内科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
EGFRをターゲットとする新規アプローチを用いたNASH発癌予防法の開発	樫村 敦詩	消化器内科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
熱ショック蛋白Apg-2のリポファジー抑制を介した肝脂肪化、肝発がん機序の解明	山口 寛二	消化器内科	1,690,000	補○ 委	文部科学省

小計 15

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
血清ペプチドバイオマーカーを用いた大腸がん早期発見の大規模前向き検証	内藤 裕二	消化器内科	19,900,000	補 委○	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
機能性消化管障害の新規診断装置の開発	井上 健	消化器内科	1,300,000	補○ 委	京都市
うつ病モデルマウスにおける好中球細胞外トラップ形成を標的とした心血管病予防戦略	山田 浩之	循環器内科	910,000	補○ 委	文部科学省
Caveolin-Cavinシステムによる肺高血圧症発症機序解明と新規治療法探索	中西 直彦	循環器内科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
合成アミロイドβ受容体によるアルツハイマー病の新規遺伝子細胞治療法の確立	星野 温	循環器内科	2,340,000	補○ 委	文部科学省
急性冠症候群患者残存不安定病変に対するPCSK9阻害薬のプラーク安定化効果の検討	若菜 紀之	循環器内科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
重症虚血肢に対し、筋組織酸素飽和度 (StO ₂) をモニタリングする近赤外線分光装置 (NIRS) を使用した至適運動療法を確立する研究	的場 聖明	循環器内科	49,140,000	補 委○	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
京丹後地域健康百寿因子探索研究と久山町研究・岩木町健診との連携多因子AI解析	的場 聖明	循環器内科	4,680,000	補○ 委	文部科学省
ミトコンドリア機能制御の基盤となるミトコンドリアー核ネットワークの包括的解明	星野 温	循環器内科	10,140,000	補○ 委	文部科学省
ヒト心筋細胞の生存促進制御機構の解明と治療応用に関する研究開発	木谷 友哉	循環器内科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
慢性鼻副鼻腔炎は心房細動の発症要因になりうるか？	谷口 琢也	循環器内科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
NSAIDs内服で惹起される好酸球性炎症とPGE ₂ /EP3遺伝子多型に関する検討	金子 美子	呼吸器内科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
悪性腫瘍に伴う悪液質の標準治療の確立	高山 浩一	呼吸器内科	10,400,000	補 委○	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
肺がんの「治療抵抗に関わるシグナル指向性」を標的とした画期的治療・診断法の開発	山田 忠明	呼吸器内科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
COPDにおけるステムセルエイジングの改善を目的とした粘液線毛輸送活性療法の開発	田宮 暢代	呼吸器内科	1,430,000	補○ 委	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
自然リンパ球とマクロファージの相互作用に注目した動脈硬化の病態解明	牛込 恵美 (白石恵美)	内分泌・糖尿病・代謝内科	2,470,000	補○ 委	文部科学省
microRNA/let-7の骨格筋萎縮・糖代謝における機能解析	岡田 博史	内分泌・糖尿病・代謝内科	650,000	補○ 委	文部科学省
男性における性ホルモン低下による非アルコール性脂肪肝炎症発症機構の解明	千丸 貴史	内分泌・糖尿病・代謝内科	2,860,000	補○ 委	文部科学省
発酵食品の内臓脂肪の自然リンパ球を介した糖尿病発症抑制メカニズムの解明	橋本 善隆	内分泌・糖尿病・代謝内科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
Lipidomics解析を用いた糖尿病発症機構における脂肪酸代謝異常の検討	中西 尚子	内分泌・糖尿病・代謝内科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
B細胞性腫瘍のクローン性進展におけるSGO-1の機能的意義と制御による合成致死	古林 勉	血液内科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
多発性骨髄腫におけるMDSCによる免疫制御機構の解析および治療への応用	志村 勇司	血液内科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
多発性骨髄腫に対するRSK2標的化創薬研究	黒田 純也	血液内科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
マントル細胞リンパ腫におけるmir17-92クラスターの網羅的機能解析と治療開発	塚本 拓	血液内科	27,300,000	補○ 委	文部科学省
脂肪組織・マスト細胞インタラクションを介した脂肪由来慢性炎症の解明	藤岡 数記	膠原病・リウマチ・アレルギー科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
シングルセル解析による膠原病関連間質性肺疾患の病態解明	藤井 渉	膠原病・リウマチ・アレルギー科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
フラクタル幾何学を用いた大脳白質病変進展の解析	水野 敏樹	脳神経内科	650,000	補○ 委	文部科学省
オートファジー・酸化ストレスの観点からのp62ーALS変異の疾患発症機序の解明	渡邊 義久	脳神経内科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
解糖系酵素変異に注目した新しいパーキンソン病病態解明と治療薬開発	笠井 高士	脳神経内科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
特発性全般てんかんの社会的認知機能-表情認知機能システムの解明	田中 章浩	脳神経内科	2,210,000	補○ 委	文部科学省

小計 15

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
多発性硬化症の臨床的多様性の背景にある免疫病態の解析と病態バイオマーカーの探索	藤井 ちひろ	脳神経内科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
ショウジョウバエ神経疾患モデルによるミトコンドリア軸索輸送障害の解明と治療開発	森井 芙貴子	脳神経内科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
超音波検査・高密度表面筋電図同時測定システムによるサルコペニアの筋機能解明	辻 有希子	脳神経内科	2,730,000	補○ 委	文部科学省
難治性疾患モデルのニューロングリア動態のin vivoイメージング解析	齋藤 光象	脳神経内科	57,577	補○ 委	文部科学省
ウェアラブル端末を用いたバイオメカニクス解析によるCMTのトレーニング理論の提案	能登 祐一	脳神経内科	3,640,000	補○ 委	文部科学省
腹水中exosomeをターゲットとした新たな治療法の開発	大辻 英吾	消化器外科	7,150,000	補○ 委	文部科学省
癌幹細胞に発現するTRPV2チャネルを標的とした食道癌新規治療法の開発	塩崎 敦	消化器外科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
新規治療とバイオマーカー確立に向けた胃癌周囲間質に特異的miRNAの網羅的解析	辻浦 誠浩	消化器外科	780,000	補○ 委	文部科学省
ゲノム構造解析による消化器癌の新規癌関連遺伝子の同定と臨床応用	渡邊 信之	消化器外科	650,000	補○ 委	文部科学省
膵癌幹細胞におけるクロライドイオン輸送体の発現機能解析と分子標的治療への応用	當麻 敦史	消化器外科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
食道癌における容積感受性チャネル蛋白LRRC8Aの機能解析と低浸透圧療法への応用	原田 恭一	消化器外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
膵癌に対するリンパ節転移・切除断端診断機器の開発	村山 康利	消化器外科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
胃癌幹細胞特異的に発現するイオンチャネルの解析と新規分子標的治療法の開発	伊藤 博士	消化器外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
分泌型癌抑制microRNAを用いた消化器癌の治療感受性予測・核酸治療法の開発	小松 周平	消化器外科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
脂肪細胞が関与する胃癌腹膜播種の分子機構の解明と新たな診断薬の開発応用	庄田 勝俊	消化器外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省

小計 15

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
胃癌に対する新規個別化診断のための血小板変容の検討	濱田 隼一	消化器外科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
固形癌における革新的ゲノム解析法を用いた免疫微小環境ならびに腫瘍不均一性の解明	川口 耕	消化器外科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
膵癌幹細胞に高発現する炎症性サイトカイン受容体を標的とした新規治療法の開発	小菅 敏幸	消化器外科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
癌幹細胞特異的に発現するイオンチャネルを標的とした肝細胞癌治療法の開発	藤井 俊	消化器外科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
血球分泌型細胞外小体の消化器癌悪性形質獲得メカニズムの解明と新たな治療戦略	有田 智洋	消化器外科	2,470,000	補○ 委	文部科学省
大腸癌幹細胞における細胞内Ca ²⁺ ダイナミクスを標的とした新規治療法の開発	工藤 道弘	消化器外科	2,340,000	補○ 委	文部科学省
サルコペニア関連microRNAの消化器癌進展に対する分子機序の解明と臨床応用	木内 純	消化器外科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
僧帽弁狭窄に対するステントレス僧帽弁置換術の安全性と有効性の評価:多施設共同研究	夜久 均	心臓血管外科	2,607,808	補○ 委	文部科学省
心拍動下冠動脈バイパス術の長期成績:日本心臓血管外科手術データベースを用いた検討	沼田 智	心臓血管外科	780,000	補○ 委	文部科学省
先天性心疾患の外科治療における流体力学的解析の応用	宮崎 隆子	心臓血管外科	1,426,152	補○ 委	文部科学省
自家・他家由来生体材料を心臓血管補填組織として用いるために最適な処理方法の開発	井上 知也	心臓血管外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
異種脱細胞化結合組織管を足場に患者体内で急速形成される自家移植用代用血管の開発	神田 圭一	心臓血管外科	3,380,000	補○ 委	文部科学省
成人先天性心疾患再手術戦略のための、先端ITを駆使した血流診断システムの構築	板谷 慶一	心臓血管外科	6,920,000	補○ 委	文部科学省
生体内組織工学技術による結合組織膜を用いた先天性心疾患に対する肺動脈拡大術の試み	山南 将志	心臓血管外科	4,680,000	補○ 委	文部科学省
製品化ポリテトラフルオロエチレン肺動脈弁付き導管の開発	山岸 正明	心臓血管外科	909,857	補○ 委	文部科学省

小計 15

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
分化転換におけるRNA代謝解析	上 大介	心臓血管外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
ライソゾーム病酵素補充療法後の中和抗体産生B細胞の特異的排除法の開発	五條 理志	心臓血管外科	3,250,000	補○ 委	文部科学省
高圧処理自家皮膚組織の“自己体内再生型”血管補填材料としての応用	山南 将志	心臓血管外科	2,600,000	補○ 委	文部科学省
エタノール放出発熱ポリマーによる微小肺癌のMRIガイド下注入硬化治療法の開発	島田 順一	呼吸器外科	2,790,000	補○ 委	文部科学省
ラット開胸モデルを用いた血小板活性抑制による癒着防止効果の検証	常塚 啓彰	呼吸器外科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
がん微小環境に着眼した肺癌に対する栄養療法の抗腫瘍効果の解明	岡田 悟	呼吸器外科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
ICFA法による移植臓器組織中抗ドナー特異的HLA抗体の測定法の開発と臨床検討	吉村 了勇	移植・一般外科	1,026,758	補○ 委	文部科学省
RNA干渉を用いたドナー臓器修復・免疫寛容誘導戦略の前臨床大動物実験による開発	昇 修治	移植・一般外科	1,245,650	補○ 委	文部科学省
骨髄由来抑制細胞による制御性T/B細胞誘導を用いた移植免疫寛容誘導に関する研究	中村 緑佐	移植・一般外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
顎骨再建における手術支援装置の開発	沼尻 敏明	形成外科	129,901	補○ 委	文部科学省
小分子化合物を用いた高機能シュワン細胞誘導技術の開発と再生医療への展開	素輪 善弘	形成外科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
軟部悪性腫瘍に対する5-ALAを用いた超音波力学療法	河原崎 彩子 (岡田 彩子)	形成外科	2,730,000	補○ 委	文部科学省
無症候性脳腫瘍のデータベース構築のための基盤的研究	橋本 直哉	脳神経外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
オプトジェネティクスによる幹細胞移植後の神経細胞の機能評価	梅林 大督	脳神経外科	650,000	補○ 委	文部科学省
視覚芸術(漫画)を応用展開したインフォームドコンセントのイノベーション戦略	笹島 浩泰	脳神経外科	2,080,000	補○ 委	文部科学省

小計 15

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
関節内低酸素環境に着目したHIF-1 α 誘導運動療法の開発	新井 祐志	整形外科	6,110,000	補○ 委	文部科学省
小児脊柱側弯症に対する生体内三次元骨格動態解析に基づく動的脊柱装具の開発	高取 良太	整形外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
プリステリンを用いた新規骨肉腫治療薬の開発	寺内 竜	整形外科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
ダイレクト・リプログラミング法で作成した骨芽細胞を用いた低侵襲的骨再生治療の開発	谷口 大吾	整形外科	520,000	補○ 委	文部科学省
体内時計と関節炎の包括的研究	藤原 浩芳	整形外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
半永久電気分極処理生体骨を用いた骨折および骨欠損治療の開発	小田 良	整形外科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
拡散テンソル法を用いたサルコペニアに対する画像評価法の開発	原 佑輔	整形外科	910,000	補○ 委	文部科学省
天然有機化合物デカルシンを用いた新規骨肉腫治療薬の開発	白井 寿治	整形外科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
骨粗鬆症におけるHGF/c-Metシグナルを介した骨と筋肉間ネットワークの解析	外村 仁	整形外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
低酸素誘導因子の制御による関節リウマチの運動療法の開発-サルコペニアの克服-	中川 周士	整形外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
アグリカンの陰性荷電に着目したOAに対するcharge based DDSの開発	久保 俊一	整形外科	3,510,000	補○ 委	文部科学省
有限要素法を用いた変形足に対する術前評価法の開発-オーダーメイド手術を目指して-	城戸 優充	整形外科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
時計遺伝子CRYに着目した体内時計の骨の成長および変形性関節症の制御機構の解明	大久保 直輝	整形外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
軟骨細胞のストレス応答におけるSIRT1の役割の解明	井上 裕章	整形外科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
ウェアラブルデバイスによる上肢関節負荷の定量化および管理法の開発	木田 圭重	整形外科	1,690,000	補○ 委	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ステロイド性骨粗鬆症の血流評価－血流改善による新たな治療法開発を目指して－	齊藤 正純	整形外科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
リハビリテーションの質を可視化する －健康長寿に向けた負荷量見える化の試み－	徳永 大作	整形外科	2,210,000	補○ 委	文部科学省
高感度磁束計による自発磁場の測定を用いた細胞評価法の確立	吉田 隆司	整形外科	2,860,000	補○ 委	文部科学省
成長軟骨板損傷の定量的予後判定の確立と成長軟骨板再生医療の開発	西田 敦士	整形外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
下腿遅筋を標的としたRAサルコペニア治療 分子シャペロン－マイオカイン誘導療法	遠山 将吾	整形外科	1,950,000	補○ 委	文部科学省
子宮内膜症のエストロゲン関連受容体による伝達系に基づく新規分子標的治療の基盤確立	北脇 城	産婦人科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
エストロゲン伝達系を介した子宮体癌浸潤転移機構解明と新規分子治療のための基盤確立	森 泰輔	産婦人科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
子宮体癌の新規内分泌療法を目的としたエストロゲン関連受容体のリガンド同定	松島 洋	産婦人科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
エストロゲンによる動脈硬化作用機序の解明と安全なホルモン補充療法の基盤確立	伊藤 文武	産婦人科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
子宮内膜症における制御性T細胞による免疫制御機構と病因病態への関与の解明	田中 佑輝子	産婦人科	2,340,000	補○ 委	文部科学省
イソフラボンの新たな子宮内膜症治療薬としての分子基盤の確立	高岡 宰	産婦人科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
子宮内膜症における子宮腔内細菌叢の同定と細菌環境が不妊医療に及ぼす影響	カーン カレク	産婦人科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
深部子宮内膜症の病態解明とステロイド合成酵素を標的とした新たな治療基盤の確立	小芝 明美	産婦人科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
CRISPR/Cas9を用いた子宮体癌におけるエストロゲン関連受容体伝達機構解明	古株 哲也	産婦人科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
子宮内膜症のPGC-1 α を介した伝達経路の解明と分子標的治療の確立	片岡 恒	産婦人科	1,430,000	補○ 委	文部科学省

小計 15

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
子宮体癌におけるエストロゲン関連受容体-上皮間葉転換を介した浸潤転移機序の解明	寄木 香織	産婦人科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
細胞干渉を介在する細胞外分泌微粒子EVsによる角膜内皮細胞変性制御	木下 茂	眼科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
学童近視における強度近視および後部ぶどう腫発症の予測因子の同定	稗田 牧	眼科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
広義原発開放隅角緑内障重症化の遺伝的要因の解明	森 和彦	眼科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
未分化増殖性ヒト角膜内皮細胞亜集団の in vitro 分化成熟法の創出	戸田 宗豊	眼科	260,000	補○ 委	文部科学省
全ゲノム解析による緑内障点眼薬の眼圧下降作用にかかわるバリエーションの同定	池田 陽子	眼科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
AMD擬似病態をin vitroで再構成する共培養系でのRPE/Mp相互作用解析	羽室 淳爾	眼科	260,000	補○ 委	文部科学省
機能性miRNAによる角膜上皮幹細胞の生体恒常性維持機構の解明	中村 隆宏	眼科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
次世代シーケンサーを用いた脂腺癌の遺伝子解析と発症メカニズムの解明	渡辺 彰英	眼科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
線維化抑制と神経保護作用を標的とした加齢性黄斑変性症に対する治療法の開発	畑中 宏樹	眼科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
網羅的計算解析による疾病病態アルゴリズムの構築ならびにその正当性の検証	木下 茂	眼科	3,120,000	補○ 委	文部科学省
角膜上皮細胞へのダイレクトリプログラミングが可能な薬剤開発	北澤 耕司	眼科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
角膜内皮細胞分化における環境適応戦略としての代謝リプログラミングの階層性	丸山 悠子	眼科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
培養角膜内皮細胞を用いた水疱性角膜症に対する革新的再生医療の早期薬事承認による社会還元	木下 茂	眼科	65,597,945	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
難治性疾患水疱性角膜症の分子病態診断法開発と標準医療化	上野 盛夫	眼科	7,930,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小計 15

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
難治性角結膜疾患に対する培養自家口腔粘膜上皮シート移植	外園 千恵	眼科	8,900,000	補 委○	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
人工コラーゲン様ポリペプチドを用いた黄斑円孔治療デバイス開発	小嶋 健太郎	眼科	58,000,000	補 委○	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
SJS/TEN 眼後遺症の予後改善に向けた戦略的研究	外園 千恵	眼科	19,980,000	補 委○	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
培養ヒト角膜内皮細胞注入再生医療の高度化	木下 茂	眼科	50,050,000	補 委○	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
国際ゲノム研究を基盤とした難治性眼疾患病態解明と治療戦略構築のための研究拠点形成	木下 茂	眼科	14,960,000	補 委○	独立行政法人 日本学術振興 会
多層オミックス解析によるSJS/TENの病態把握と予後向上に向けた戦略的研究	外園 千恵	眼科	6,240,000	補○ 委	文部科学省
角膜移植Graftの環境適応応答破綻に係る移植巣微小環境の解明	上野 盛夫	眼科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
眼内液解析によるフォークト-小柳-原田病の病態解明	永田 健児	眼科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
網膜剥離の新たな低侵襲手術・上脈絡膜腔バックリングの最適化へ向けた基礎的研究	小嶋 健太郎	眼科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
常在細菌叢と性ホルモンによるマイボーム腺脂質代謝制御機構及び眼表面疾患病態の解明	鈴木 智	眼科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
タイとの共同研究(NRCT) 角膜再生医療のタイへの展開	外園 千恵	眼科	2,337,500	補 委○	日本学術振興 会
視機能/加齢性疾患が高齢者の身体機能に与える影響および予防・治療法に関する研究	外園 千恵	眼科	1,200,000	補 委○	国立研究開発 法人国立長寿 医療研究セン ター
アレルギー疾患の患者および養育者の就労・就学支援を推進するための研究	加藤 則人	皮膚科	5,966,000	補○ 委	厚生労働省
Siglecs由来シグナルによるアレルギー性皮膚疾患の治療法の開発	加藤 則人	皮膚科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
囊胞腎発症を制御する一次繊毛からのシグナル経路の解析	中島 由郎	皮膚科	1,820,000	補○ 委	文部科学省

小計 15

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
アレルギー性皮膚疾患における転写因子IRF3を介する自然免疫シグナルの役割の解明	峠岡 理沙	皮膚科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
乳房外パジェット病の病態解明および新規治療法の開発	浅井 純	皮膚科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
前立腺癌監視療法における治療指針決定マーカーの開発	沖原 宏治	泌尿器科	260,000	補○ 委	文部科学省
複数の前立腺癌病巣のうち個体の予後を規定する癌病巣を特定する研究	岩田 健	泌尿器科	910,000	補○ 委	文部科学省
女性泌尿器科手術における術中三次元リアルタイムナビゲーション法の開発	藤原 敦子	泌尿器科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
機能未知ユビキチン様タンパク質を介した精巣腫瘍発症メカニズムの解明	上田 紗弥 (伊藤 紗弥)	泌尿器科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
生体内ダイレクト・リプログラミングによる膀胱平滑筋の再生	松原 弘樹	泌尿器科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
細胞内外イオン環境の変化に対する鼻粘膜線毛細胞の応答性	安田 誠	耳鼻咽喉科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
幹細胞からの声帯線維芽細胞への分化誘導と再生医療への応用	斉藤 敦志	耳鼻咽喉科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
干渉波電気刺激および薬剤投与に伴う嚥下惹起制御機構の解明	杉山 庸一郎	耳鼻咽喉科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
ゲノム編集を用いた新規的内耳遺伝子導入法の開発	坂口 博史	耳鼻咽喉科	351,760	補○ 委	文部科学省
内耳におけるDIAPH1の生理的機能の解明およびDFNA1治療薬の開発	二之湯 弦	耳鼻咽喉科	2,210,000	補○ 委	文部科学省
頭頸部癌におけるautophagy異常に起因した癌治療抵抗性の解明と制御	新井 啓仁	耳鼻咽喉科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
声帯硬化性病变に対する再生医療の重症度に応じた体系化のための基礎的研究	平野 滋	耳鼻咽喉科	4,251,843	補○ 委	文部科学省
声帯溝症に対する羊膜移植を用いた声帯再生医療開発のための基礎研究	平野 滋	耳鼻咽喉科	2,600,000	補○ 委	文部科学省

小計 15

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
頭頸部癌薬物療法による免疫微小環境変化に基づく治療効果予測バイオマーカーの開発	竹中 まり	耳鼻咽喉科	910,000	補○ 委	文部科学省
ICK繊毛キナーゼが内耳有毛細胞の平面内細胞極性を制御するメカニズムの解明	岡本 志央	耳鼻咽喉科	2,860,000	補○ 委	文部科学省
声帯癰痕に対する新規エストロゲン治療法の開発	棕代 茂之	耳鼻咽喉科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
新規多重免疫組織化学法を用いた頭頸部癌不均一性と免疫的癌微小環境の解析	辻川 敬裕	耳鼻咽喉科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
甲状腺濾胞癌の発生と進行に関与する免疫的癌微小環境特性の同定	大村 学	耳鼻咽喉科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
PTSDおよびうつ病モデル動物を用いた疾患鑑別のためのMRI画像研究	吉井 崇喜	精神科・心療内科	390,000	補○ 委	文部科学省
高齢者介護施設利用者における薬剤性有害事象および薬剤関連エラーの臨床疫学的研究	綾仁 信貴	精神科・心療内科	650,000	補○ 委	文部科学省
アルツハイマー型認知症バイオマーカーとしての松果体体積の臨床応用	松岡 照之	精神科・心療内科	910,000	補○ 委	文部科学省
強迫症の新規治療;グルタミン酸系薬剤治療効果メカニズムの解明	阿部 能成	精神科・心療内科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
バーチャルリアリティを用いた強迫症短期集中治療プログラムの開発	中前 貴	精神科・心療内科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
脳機能補完による高齢者・障がい者の機能回復支援技術の研究開発	松岡 照之	精神科・心療内科	7,484,400	補 委○	国立研究開発 法人情報通信 研究機構
内受容感覚の計算論モデルに基づいた身体症状症に対する評価指標の開発	上野 大介	精神科・心療内科	910,000	補○ 委	文部科学省
認知症高齢者に向けた情報支援のあり方に関する研究	浦久保 安輝子	精神科・心療内科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
身体症状症および関連症群に対するグループ認知行動療法の効果の実証	富永 敏行	精神科・心療内科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
85歳以上の超高齢者を対象とした簡便な認知機能スクリーニング検査法の開発	加藤 佑佳	精神科・心療内科	627,200	補○ 委	文部科学省

小計 15

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
情報活用による高齢者シェアダイニングの構築	成 本 迅	精神科・心療内科	3,640,000	補 委○	国立研究開発 法人科学技術 振興機構
PET,CT,MRIによる包括的映像法を用いた不安定プラークの病態評価	玉 木 長 良	放射線科	5,051,923	補○ 委	文部科学省
子宮頸部癌画像誘導小線源治療における最適な組織内照射併用方法の開発	山 崎 秀 哉	放射線科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
放射線皮膚炎の安価で簡便な普及型ユビキタス定量評価システムの開発	鈴 木 弦	放射線科	650,000	補○ 委	文部科学省
3次元ポリマーゲル線量計を利用した高線量率小線源治療の品質保証の開発	武 中 正	放射線科	520,000	補○ 委	文部科学省
SWIおよびIVIM-MRIを用いた子宮筋腫と肉腫の鑑別能の検討	山 田 幸 美	放射線科	910,000	補○ 委	文部科学省
空間把握能力を持ったCTガイド下穿刺補助デバイスの開発	増 井 浩 二	放射線科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
内部水冷式針を用いた肺スリガラス結節に対する媒体注入下マイクロ波凝固療法の構築	吉 川 達 也	放射線科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
I-123 MIBG の定量解析法を用いた神経芽腫の治療戦略への応用	西 村 元 喜	放射線科	780,000	補○ 委	文部科学省
陽子線がん治療における生成反応断面積の測定及び体内線量評価システムの開発	松 下 慶 一 郎	放射線科	130,000	補○ 委	文部科学省
動体追跡放射線治療のための生体吸収性合金を用いた肺内留置マーカーの開発	田 中 匡	放射線科	198,074	補○ 委	文部科学省
アルツハイマー病に対する機械学習を用いた非侵襲的MRI バイオマーカーの創設	山 田 恵	放射線科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
CFD解析を用いた球状塞栓物質の動態シミュレーション	三 浦 寛 司	放射線科	780,000	補○ 委	文部科学省
凍結療法における隣接臓器傷害防止のための生体吸収性バルーン型スペーサーの開発	廣 田 達 哉	放射線科	910,000	補○ 委	文部科学省
数値モデルを用いた肝細胞がんに対するスキヤニング陽子線治療戦略最適化に向けた検討	尾 方 俊 至	放射線科	1,170,000	補○ 委	文部科学省

小計 15

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
低出生体重児の発達予測における画像バイオマーカーの開発	赤澤 健太郎	放射線科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
陽子線治療スポットスキャン方式用新規レンジシフトベッドの開発	太田 誠一	放射線科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
膵臓がん細胞株Panc-1における IL-6による放射線抵抗性獲得機構の解明	玉利 勇樹	放射線科	1,950,000	補○ 委	文部科学省
緑膿菌病原性抗原の血清抗体価大規模疫学調査と抗緑膿菌ガンマグロブリン製剤試作	佐和 貞治	麻酔科	4,160,000	補○ 委	文部科学省
重症緑膿菌性肺炎に対するバクテリオファージ療法の前臨床試験	佐和 貞治	麻酔科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
2型糖尿病易感染性病態の解明と治療に向けた白血球遺伝子及びcfDNAの網羅的解析	前田 祥子	麻酔科	780,000	補○ 委	文部科学省
カナビノイド由来の新たなプロスタグランジン合成経路とその疼痛メカニズムへの関与	伊吹 京秀	麻酔科	780,000	補○ 委	文部科学省
トロンビン増幅経路に関与する凝固因子の相互作用に着目した凝固因子濃縮製剤の開発	小川 寛	疼痛・緩和ケア科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
ストレス性高カテコラミン血症が術後遷延痛を引き起こすメカニズムの解明	山崎 正記	麻酔科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
緑膿菌性肺傷害に対する新規免疫療法の開発	加藤 秀哉	麻酔科	650,000	補○ 委	文部科学省
人工心肺使用開心術における血小板機能不全に関する遺伝子発現調節メカニズムの解明	石井 祥代	麻酔科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
緑膿菌感染症の自然免疫における抗体価の経時的解析と最適な獲得免疫の判定基準の検討	木下 真央	麻酔科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
MRSA肺炎に対するDDSを利用した複合抗体療法の開発	清水 優	麻酔科	910,000	補○ 委	文部科学省
コンパートメントカルチャーを用いた神経障害性疼痛のメカニズム解明	柴崎 雅志	麻酔科	910,000	補○ 委	文部科学省
術後痛におけるGRK2関連メカニズムの解析	山北 俊介	麻酔科	2,470,000	補○ 委	文部科学省

小計 15

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
Parkinとミトコンドリア機能不全に着目した慢性痛の新規治療戦略	天谷 文昌	疼痛・緩和ケア科	5,460,000	補○ 委	文部科学省
アレステンと痛覚受容体の機能連関に注目した新たな慢性痛発症メカニズムの解析	天谷 文昌	疼痛・緩和ケア科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
横紋筋肉腫に対するエクソソームデリバリーシステムを用いた新規細胞遺伝子治療の開発	細井 創	小児科	4,810,000	補○ 委	文部科学省
横紋筋肉腫に対する成長因子受容体を標的とした新規キメラ抗原受容体T細胞療法の開発	柳生 茂希	小児科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
難治小児がんの特異的遺伝子発現とHDAC阻害剤による増殖抑制・分化誘導効果の検討	家原 知子	小児科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
横紋筋肉腫におけるRAS変異に基づいたプレシジョン医療開発のための基礎的検討	菊地 颯	小児科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
急性リンパ性白血病の薬剤耐性機序の分子基盤の解析	今村 俊彦	小児科	910,000	補○ 委	文部科学省
ショウジョウバエモデルを用いたリボソーム病神経障害の分子病態解明と治療探索	千代延 友裕	小児科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
CRP陰性若年性特発性関節炎のバイオマーカー探索	秋岡 親司	小児科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
時計遺伝子CLOCKの遺伝子多型と小児肥満の関連解析	中島 久和	小児科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
STXBP1関連てんかん性脳症の軸索輸送障害に着目した新たな病態機序の解明	戸澤 雄紀	小児科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
新規治療戦略の確立をめざしたラブドイド腫瘍肝細胞の同定と細胞学的特性の解析	勝見良樹	小児科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
小児およびAYA世代の横紋筋肉腫およびユーイング肉腫患者に対するリスク層別化臨床試験実施による標準的治療法の開発	細井 創	小児科	26,403,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
EPHB4受容体陽性悪性軟部腫瘍を標的とした非ウイルス遺伝子改変キメラ抗原受容体T細胞療法の非臨床実験	柳生 茂希	小児科	85,020,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
悪性軟部腫瘍を対象としたWT1ペプチドワクチンの開発について	細井 創	小児科	10,607,053	補 委○	公益財団法人日本医師会

小計 15

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
日本初の遺伝子改変T細胞の実用化を促進するための、霊長類モデルを用いた安全性評価系の基盤整備	柳生 茂希	小児科	2,500,000	補 委○	国立大学法人 信州大学
KMT2A再構成陽性急性リンパ性白血病に対するCAR-T療法の開発	大曾根 眞也	小児科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
肥満を形成する食行動・食嗜好におけるMeCP2遺伝子の役割	福原 正太	小児科	2,210,000	補○ 委	文部科学省
褐色脂肪細胞の分化・増殖メカニズムに着目した新規肥満治療薬の探索	森元 英周	小児科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
CAR-T細胞の「疲弊」改善に寄与する共刺激因子発現型腫瘍溶解ウイルスの開発	吉田 秀樹	小児科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
神経芽腫に対するMEK阻害剤の前臨床試験	東 真弓	小児外科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
神経芽腫に対する間葉系幹細胞を用いた腫瘍選択性ドラッグデリバリーシステムの開発	木村 幸積	小児外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
胆道閉鎖症発症におけるSox17遺伝子発現の関与の臨床検体における解析	青井 重善	小児外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
神経芽腫モデルマウスを用いたGD2抗体発現間葉系幹細胞による新規細胞免疫療法開発	田尻 達郎	小児外科	4,550,000	補○ 委	文部科学省
MRFs導入筋細胞分化と生体内組織形成技術による機能的骨格筋シートの開発	文野 誠久	小児外科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
小児がんに対する個別化医療導入に関する研究	田尻 達郎	小児外科	3,000,000	補 委○	国立研究開発 法人国立がん研 究センター
製品化ポリテトラフルオロエチレン肺動脈弁付き導管の開発	山岸 正明	小児心臓血管 外科	909,857	補○ 委	文部科学省
足場とドラッグデリバリー機能を持つハイブリッドナノゲルを用いた顎骨再生と臨床応用	山本 俊郎	歯科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
直接誘導骨芽細胞の疾患モデル動物への応用	滝沢 茂太	歯科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
培養3次元軟骨組織の構築と非破壊的解析技術による軟骨再生医療	足立 哲也	歯科	1,170,000	補○ 委	文部科学省

小計 15

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
骨代謝制御機構に注目した歯周関連疾患におけるβ-クリプトキサンチンの有用性の検討	大迫 文重	歯科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
ラマン分光法を用いた単純ヘルペスウイルス感染と再活性化の分子機構の解明	足立 圭司	歯科	1,950,000	補○ 委	文部科学省
生体アパタイトの配行性・結晶性を有した骨オルガノイドの構築と臨床応用への展開	金村 成智	歯科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
酪酸による歯周組織破壊のメカニズム解析	白杉 迪洋	歯科	918,057	補○ 委	文部科学省
自家誘導骨芽細胞を含み自在な3D形状に構築できる再生治療用培養骨組織の開発	佐藤 良樹	歯科	1,950,000	補○ 委	文部科学省
OCSTAMPを分子標的とした病的破骨細胞誘導の制御による骨吸収性疾患の再生治療	山本 健太	歯科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
軟骨オルガノイドの構築と非破壊的解析技術による軟骨再生医療への応用	足立 哲也	歯科	15,600,000	補○ 委	文部科学省
救急患者の効率的なデータ収集と臨床研究応用のためのシステム開発	松山 匡	救急医療科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
サルコペニアを可視化する-拡散テンソル法を用いた骨格筋の機能描出-	大橋 鈴世	リハビリテーション科	910,000	補○ 委	文部科学省
姿勢からみる高齢者の活動 ー 京丹後長寿コホート研究 ー	三上 靖夫	リハビリテーション科	2,600,000	補○ 委	文部科学省
硝子体疾患における眼内Tリンパ球6-color flow cytometry解析	稲葉 亨	臨床検査部	1,950,000	補○ 委	文部科学省
中間群および低悪性度に分類される原発性骨腫瘍の臨床病理学的解析	小西 英一	病院病理部	910,000	補○ 委	文部科学省
慢性腎臓病の尿細管間質病変形成における接着分子CADM1の役割	高島 康利	病院病理部	650,000	補○ 委	文部科学省

小計 13

計 253件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3-2)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Naohisa Yoshida	消化器内科	Efficacy of precutting endoscopic mucosal resection with full or partial circumferential incision using a snare tip for difficult colorectal lesions.	Endoscopy 2019 September;51:871-876	Original Article
2	Naohisa Yoshida	消化器内科	Efficacy of the combination use of aprepitant and palonosetron for improving nausea in various moderately emetogenic chemotherapy regimens.	BMC Pharmacology and Toxicology 2019 January;20:6.	Original Article
3	Naohisa Yoshida	消化器内科	Efficacy of scissors-type knives for endoscopic mucosal dissection of superficial gastrointestinal neoplasms.	Digestive Endoscopy 2020 January; 32: 4-15	Review
4	Takeshi Ishikawa	消化器内科	Early administration of pegfilgrastim for esophageal cancer treated with docetaxel, cisplatin, and fluorouracil: A phase II study.	Cancer Science. 2019 Dec;110(12):3754-3760	Original Article
5	Yuko Kanbayashi	化学療法部	Comparison of the efficacy of cryotherapy and compression therapy for preventing nanoparticle albumin-bound paclitaxel-induced peripheral neuropathy: A prospective self-controlled trial.	Breast. 2020 Feb;49:219- 224	Original Article
6	Seko Yuya, Mizuno N, Okishio S, et al.	消化器内科	Clinical and pathological features of sarcopenia-related indices in patients with non-alcoholic fatty liver disease	Hepatology Research. 2019 Jun; 49(6): 627-636	Original Article
7	Seko Yuya, Moriguchi M, Hara T, et al.	消化器内科	Presence of varices in patients after hepatitis C virus eradication predicts deterioration in the FIB-4 index	Hepatology Research. 2019 Apr; 49(4): 473-478	Original Article
8	Kodoya Y, Zen K, Kato T, et al	循環器内科	feasibility and safety of reverse catheterization technique of the superficial femoral artery insingle-stage endovascular treatment of bilateral infrainguinal diseases.	Vasc Endovascular Surg 2019 Apr;53:206-211.	Case report
9	Kadoya Y, Zen K, Kuwabara K, et al	循環器内科	Balloon-assisted sheath insertion technique for transfemoral aortic valve replacement through an aortoiliac endograft.	Cardiovasc Interv Ther. 2019 Oct;34:395-396.	Case report
10	Kadoya Y, Zen K, Kuwabara K, et al	循環器内科	Pinhole Balloon Rupture During Valve Alignment in TAVR Using SAPIEN 3.	Cardiovasc Interv.2019 Jun;12:1188-1189.	Case report
11	Kadoya Y, Zen K, Oda Y, et al.	循環器内科	Successful Endovascular Treatment for Aortic Thrombosis Due to Primary Antiphospholipid Syndrome: A Case Report and Literature Review.	Vasc Endovascular Surg. 2019Jan;53:51-57.	Case report
12	Kadoya Y, Zen K, Yamano M, et al	循環器内科	Exfoliated Endothelium Identified by Transesophageal Echocardiography During TAVR.	JACC Cardiovasc Interv. 2020 Mar;13:e49-e50.	Case report
13	Nakanishi N, Fukai K, Tsubata H, et al	循環器内科	Angioscopic Evaluation During Balloon Pulmonary Angioplasty in Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension.	Heart Lung Circ. 2019 Apr;28:655-659.	Original Article

小計 13

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
14	Nishi M, Ogata T, Cannistraci CV, et al	循環器内科	Systems Network Genomic Analysis Reveals Cardioprotective Effect of MURC/Cavin-4 Deletion Against Ischemia/Reperfusion Injury.	J Am Heart Assoc. 2019 Aug;8:e012047.	Original Article
15	Shoji K, Yanishi K, Shiraishi H, et al	循環器内科	Establishment of optimal exercise therapy using near-infrared spectroscopy monitoring of tissue muscle oxygenation after therapeutic angiogenesis for patients with critical limb ischemia: A multicenter, randomized, controlled trial.	Contemp Clin Trials Commun. 2020 Feb;17:100542.	Original Article
16	Okawa Y, Hoshino A, Ariyoshi M, et al	循環器内科	Ablation of cardiac TIGAR preserves myocardial energetics and cardiac function in the pressure overload heart failure model.	Am J Physiol Heart Circ Physiol. 2019 Jun;316:H1366-h1377.	Original Article
17	Shoji K, Yanishi K, Shiraishi J, et al.	循環器内科	In-stent Massive Thrombi Formation During Primary Percutaneous Coronary Intervention in a Patient with Acute Myocardial Infarction Complicated with Essential Thrombocythemia.	Intern Med. 2019 May;58:1287-1293.	Case report
18	Sugimoto T, Zen K, Matsumuro A, et al.	循環器内科	A rare case of interventricular septal haematoma following retrograde intervention for total occlusion of the left anterior descending coronary artery managed conservatively.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2019 Nov;20:1318.	Case report
19	Takai S, Nakanishi N, Yokota I, et al.	循環器内科	Clot regression effects of rivaroxaban in the treatment of venous thromboembolism in patients with cancer (CRERIT-VTE cancer): study protocol.	BMJ Open. 2019 Nov 5;9(11):e031698.	Original Article
20	Yanishi K, Shoji K, Fujioka A, et al.	循環器内科	Impact of Therapeutic Angiogenesis Using Autologous Bone Marrow-derived Mononuclear Cell Implantation in Patients with No-option Critical Limb Ischemia.	Ann Vasc Dis. 2020 Mar;13:13-22.	Review
21	Yamano M, Yamano T, Nakamura T, et al.	循環器内科	Predictors of Increased Left Ventricular Filling Pressure After Transcatheter Atrial Septal Defect Closure.	Circulation Reports. 2020 Jan;2:113-120	Original Article
22	Miki T, Senoo K, Ohkura T, et al.	循環器内科	Importance of Preoperative Computed Tomography Assessment of the Membranous Septal Anatomy in Patients Undergoing Transcatheter Aortic Valve Replacement With a Balloon-Expandable Valve.	Circ J. 2020 Jan;84:269- 276.	Original Article
23	Uehara M, Kusaba T, Ida T, et al.	腎臓内科	Pharmacological inhibition of ataxia- telangiectasia mutated exacerbates acute kidney injury by activating p53 signaling in mice.	Sci Rep. 2020 Mar 10; 10(1): 4441.	Original Article
24	Ida T, Kusaba T, Kado H, et al.	腎臓内科	Ambulatory blood pressure monitoring-based analysis of long-term outcomes for kidney disease progression.	Sci Rep. 2019 Dec 17; 9(1): 19296.	Original Article
25	Mihara Y, Kado H, Yokota I, et al.	腎臓内科	Rapid weight loss with dietary salt restriction in hospitalized patients with chronic kidney disease.	Sci Rep. 2019 Jun 19; 9(1): 8787.	Original Article
26	Tanaka M, Nishiwaki H, Kado H, et al.	腎臓内科	Impact of salt taste dysfunction on interdialytic weight gain for hemodialysis patients; a cross-sectional study.	BMC Nephrol. 2019 Apr 5; 20(1): 121.	Original Article
27	Yamada T	呼吸器内科	Retrospective efficacy analysis of immune checkpoint inhibitors in patients with EGFR- mutated non-small cell lung cancer.	Cancer Med. 2019 Apr;8(4):1521-1529.	Original Article
28	Nishioka N	呼吸器内科	Association of Sarcopenia with and Efficacy of Anti-PD-1/PD-L1 Therapy in Non-Small- Cell Lung Cancer.	J. Clin. Med. 2019, 8, 450. 2019 Apr	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
29	Chihara Y	呼吸器内科	Phase II Study of S-1 and Paclitaxel Combination Therapy in Patients with Previously Treated Non-Small Cell Lung Cancer.	Oncologist. 2019 ;24(8):1033-e617 2019 Aug	Original Article
30	Yoshimura A	呼吸器内科	Carcinoembryonic antigen and CYFRA 21-1 responses as prognostic factors in advanced non-small cell lung cancer	Transl Lung Cancer Res 2019;8(2):227-234. 2019 Jun	Original Article
31	Takayama K	呼吸器内科	Randomized, phase II study of weekly paclitaxel plus carboplatin versus biweekly paclitaxel plus carboplatin for patients with previously untreated advanced non-small cell lung cancer	Oncologist. 2019;24(11):1420-e1010. 2019 Nov	Original Article
32	Takayama K	呼吸器内科	Phase II study on biweekly combination therapy of gemcitabine plus carboplatin for the treatment of elderly patient with advanced non-small cell lung cancer	Oncologist. 2020;25(3):208-e417.2019 Oct	Original Article
33	Yoshimura A	呼吸器内科	Comparing Three Different Anti-PD-L1 Antibodies for Immunohistochemical Evaluation of Small Cell Lung Cancer	Lung Cancer. 2019 Sep 16;137:108-112.	Original Article
34	Yoshimura A	呼吸器内科	Retrospective analysis of docetaxel in combination with ramucirumab for previously treated non-small cell lung cancer patients.	Transl Lung Cancer Res 2019;8(4):450-460. doi: 10.21037/tlcr.2019.08.07 2019 Aug	Original Article
35	Katayama Y	呼吸器内科	The role of the gut microbiome on the efficacy of immune checkpoint inhibitors in Japanese responder patients with advanced non-small cell lung cancer	Transl Lung Cancer Res. 2019;8(6):847-853. 2019 Dec	Original Article
36	Takayama K	呼吸器内科	Phase I/II study of docetaxel and S-1 in previously-treated patients with advanced non-small cell lung cancer: LOGIK0408	J. Clin. Med. 2019, 8, 2196. 2019 Dec	Original Article
37	Chihara Y	呼吸器内科	Rationale and design of a phase II trial of osimertinib as first-line treatment for elderly patients with epidermal growth factor receptor mutation-positive advanced non-small cell lung cancer (SPIRAL-0 study)	Transl Lung Cancer Res 2019;8(6):1086-1090. 2019 Dec	Original Article
38	Katayama Y	呼吸器内科	Retrospective Efficacy Analysis of Immune Checkpoint Inhibitor Rechallenge in Patients with Non-Small Cell Lung Cancer.	J. Clin. Med. 2020, 9, 102. 2019 Dec	Original Article
39	Okura N	呼吸器内科	ONO-7475, a novel AXL inhibitor, suppresses the adaptive resistance to initial EGFR-TKI treatment in EGFR-mutated non-small lung cancer	Clin Cancer Res. 2020;26(9):2244-2256. 2020 Jan	Original Article
40	Emi Ushigome	内分泌・糖尿病・代謝内科	Effects of dietary salt restriction on home blood pressure in diabetic patients with excessive salt intake: a pilot study.	J. Clin. Biochem. Nutr. 65(3): 252-257, 2019.Nov	Original Article
41	Emi Ushigome	内分泌・糖尿病・代謝内科	Evaluation of the efficacy of simplified nutritional instructions from physicians on dietary salt restriction for patients with type 2 diabetes mellitus consuming excessive salt: protocol for a randomized controlled trial.	Trials 23 20(1): 761, 2019.Dec 23.	Original Article
42	Takuro Okamura	内分泌・糖尿病・代謝内科	The sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor luseoglitazone can suppress muscle atrophy in Db/Db mice by suppressing the expression of foxo1.	J. Clin. Biochem. Nutr. 65: 23-28, 2019.Jul;	Original Article
43	Takuro Okamura	内分泌・糖尿病・代謝内科	High brain natriuretic peptide is associated with sarcopenia in patients with type 2 diabetes: a cross-sectional study of KAMOGAWA-DM cohort study.	Endocr. J. 66: 369-377, 2019.Apr	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
44	Takuro Okamura	内分泌・糖尿病・代謝内科	Triglyceride-glucose index is a predictor of incident chronic kidney disease: a population-based longitudinal study.	Clin. Exp. Nephrol. 23: 948-955, 2019.Jul	Original Article
45	Takuro Okamura	内分泌・糖尿病・代謝内科	Maximum morning home systolic blood pressure is an indicator of the development of diabetic nephropathy: The KAMOGAWA-HBP study.	J. Diabetes. Investig. 10: 1543-1549, 2019.Nov	Original Article
46	Takuro Okamura	内分泌・糖尿病・代謝内科	Shortage of energy intake rather than protein intake is associated with sarcopenia in elderly patients with type 2 diabetes: A cross-sectional study of the KAMOGAWA-DM cohort.	J. Diabetes. 11(6): 477-483, 2019.Jun	Original Article
47	Aya kitae	内分泌・糖尿病・代謝内科	The Triglyceride and Glucose Index Is a Predictor of Incident Nonalcoholic Fatty Liver Disease: A Population-Based Cohort Study.	Can J Gastroenterol Hepatol. 2019 Oct 7	Original Article
48	Tomonori Kimura	内分泌・糖尿病・代謝内科	Japanese radio calisthenics prevents the reduction of skeletal muscle mass volume in people with type 2 diabetes.	BMJ Open Diabetes Research: 10. 1136/bmjdr-2019-001027. 2019.Jun	Original Article
49	Ryo Bamba	内分泌・糖尿病・代謝内科	The Visceral Adiposity Index Is a Predictor of Incident Chronic Kidney Disease: A Population-Based Longitudinal Study.	Kidney Blood Press Res. 2020;45(3):407-418. doi: 10.1159/000506461. Epub 2020 Mar 30.	Original Article
50	Hanako Nakajima	内分泌・糖尿病・代謝内科	Association between Sleep Duration and Incident Chronic Kidney Disease: A Population-Based Cohort Analysis of the NAGALA Study.	Kidney Blood Press Res. 2020;45(2):339-349. doi: 10.1159/000504545. Epub 2020 Mar 4.	Original Article
51	Yoshitaka Hashimoto	内分泌・糖尿病・代謝内科	Impact of metabolically healthy obesity on the risk of incident gastric cancer: a population-based cohort study.	BMC Endocr Disord. 2020 Jan 20;20(1):11. doi: 10.1186/s12902-019-0472-2.	Original Article
52	Takuro Okamura	内分泌・糖尿病・代謝内科	miR-23b-3p acts as a counter-response against skeletal muscle atrophy.	J Endocrinol. 2020 Mar;244(3):535-547. doi: 10.1530/JOE-19-0425.	Original Article
53	Yoshitaka Hashimoto	内分泌・糖尿病・代謝内科	Creatinine to Body Weight Ratio Is Associated with Incident Diabetes: Population-Based Cohort Study.	J Clin Med. 2020 Jan 15;9(1):227. doi: 10.3390/jcm9010227.	Original Article
54	Yoshitaka Hashimoto	内分泌・糖尿病・代謝内科	Skipping breakfast is associated with glycemic variability in patients with type 2 diabetes.	Nutrition. 2020 Mar;71:110639. doi: 10.1016/j.nut.2019.110639. Epub 2019 Nov 9.	Original Article
55	Yoshitaka Hashimoto	内分泌・糖尿病・代謝内科	Seasonal variation in home blood pressure and its relationship with room temperature in patients with type 2 diabetes.	Diab Vasc Dis Res. Jan-Feb 2020;17(1):1479164119883986. doi: 10.1177/1479164119883986. Epub 2019 Nov 14.	Original Article
56	Takuro Okamura	内分泌・糖尿病・代謝内科	Creatinine-to-bodyweight ratio is a predictor of incident non-alcoholic fatty liver disease: A population-based longitudinal study.	Hepatol Res. 2020 Jan;50(1):57-66. doi: 10.1111/hepr.13429. Epub 2019 Nov 14.	Original Article
57	Masahide Hamaguchi	内分泌・糖尿病・代謝内科	Non-alcoholic fatty liver disease with obesity as an independent predictor for incident gastric and colorectal cancer: a population-based longitudinal study.	BMJ Open Gastroenterol. 2019 May 30;6(1):e000295. doi: 10.1136/bmjgast-2019-000295. eCollection 2019.	Original Article
58	Tomoko Takimoto-Shimomura	血液内科	Dual targeting of bromodomain-containing 4 by AZD5153 and BCL2 by AZD4320 against B-cell lymphomas concomitantly overexpressing c-MYC and BCL2	Investigational New Drugs; 37(2): 210-222, 2019, Apr	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
59	Junko Yamaguchi	血液内科	Epstein-Barr virus-associated lymphoproliferative disease during imatinib mesylate treatment for chronic myeloid leukemia	Haematologica; 104(8): e376-e379, 2019,Jul	Case report
60	Yuka Kawaji	血液内科	Diffuse large B cell lymphoma with chromosomal translocation t(14;19)(q32;q13) occurring in IgG4-related disease	Annals of Hematology; 98(7): 1785-1787, 2019,Jul	Case report
61	Junko Yamaguchi	血液内科	Prediction of delayed platelet engraftment after autologous stem cell transplantation for B-cell non-Hodgkin lymphoma	Leukemia Lymphoma; 60 (14): 3434-3441, 2019,Jul	Original Article
62	Tomoko Takimoto-Shimomura	血液内科	Primary intraocular natural killer-cell lymphoma successfully treated using a multidisciplinary strategy	Annals of Hematology; 98(11): 2617-2619, 2019,Nov	Letter
63	Reiko Isa	血液内科	Sequential therapy of four cycles of bortezomib, melphalan, and prednisolone followed by continuous lenalidomide and dexamethasone for transplant-ineligible newly diagnosed multiple myeloma	Annals of Hematology; 99(1): 137-145, 2020,Jan	Original Article
64	Shinomoto Makiko, Kasai T, Tatebe H, et al.	神経内科	Plasma neurofilament light chain: A potential prognostic biomarker of dementia in adult Down syndrome patients.	PLoS One. 14(4): e0211575. 2019 Apr	Original Article
65	Makita Naoki, Yamamoto Y, Nagakane Y, et al.	神経内科	Stroke mechanisms and their correlation with functional outcome in medullary infarction	Journal of the Neurological Sciences. 400:1-6. 2019 May	Original Article
66	Koizumi Takashi, Mizuta I, Watanabe-Hosomi A, et al.	神経内科	The CADASIL Scale-J, A Modified Scale to Prioritize Access to Genetic Testing for Japanese CADASIL-Suspected Patients	Journal of Stroke and Cerebrovascular disease. 28(6):1431-1439. 2019 Jun	Original Article
67	Yoshida Tomokatsu, Mizuta I, Yasuda R et al.	神経内科	Characteristics of cerebral lesions in adult-onset Alexander disease.	Neurological Sciences. 2019 Aug.	Letter
68	Yasuda Rei, Nakano M, Yoshida T, et al.	神経内科	Towards genomic database of Alexander disease to identify variations modifying disease phenotype.	Scientific Report. 9(1):14763. 2019 Oct	Original Article
69	Koizumi Takashi, Yamamoto Y, Nagakane Y, et al.	神経内科	The anterior one third of the posterior limb of the internal capsule is also supplied by the anterior choroidal artery.	Journal of the Neurological Sciences. 15;406:116455. 2019 Nov	Original Article
70	Matsuura Jun, Inoue R, Takagi T, et al.	神経内科	Analysis of gut microbiota in patients with cerebral autosomal dominant arteriopathy with subcortical infarcts and leukoencephalopathy (CADASIL)	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition 65(3):240-244.2019 Nov	Original Article
71	Ohara Tomoyuki, Uehara T, Sato S, et al.	神経内科	Small vessel occlusion is a high-risk etiology for early recurrent stroke after transient ischemic attack.	International Journal of Stroke. 14(9):871-877, 2019 Dec	Original Article
72	Koizumi Takashi, Kerkhofs D, Mizuno T, et al.	神経内科	Vessel-Associated Immune Cells in Cerebrovascular Diseases: From Perivascular Macrophages to Vessel-Associated Microglia	Frontiers in Neuroscience 4;13:1291.2019 Dec	Review
73	Kasai Takashi, Kojima Y, Ohmichi T, et al.	神経内科	Combined use of CSF NfL and CSF TDP-43 improves diagnostic performance in ALS.	Annals of Clinical and Translational Neurology. 6(12):2489-2502,2019 Dec	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
74	Noto Yu-Ichi, Kondo M, Tsuji Y, et al.	神経内科	Diagnostic Value of Muscle [11 C] PIB-PET in Inclusion Body Myositis	Frontiers in Neurology. 10:1386. 2020 Jan	Original Article
75	Ohara Tomoyuki, Farhoudi M, Bang OY, et al.	神経内科	The emerging value of serum D-dimer measurement in the work-up and management of ischemic stroke.	International Journal of Stroke. 15(2):122-131. 2020 Feb	Review
76	Komatsu S, Otsuji E.	消化器外科	Essential updates 2017/2018: Recent topics in the treatment and research of gastric cancer in Japan.	Annals of Gastroenterological Surgery. 2019 Aug; 3(6): 581-91	Original Article
77	Matsubara D, Konishi H, Kubota T, et al.	消化器外科	Comparison of Clinical Outcomes of Gastrojejunal Bypass and Gastrectomy in Patients With Metastatic Gastric Cancer.	Anticancer Research 2019 May; 39(5): 2545-51	Original Article
78	Kubota T, Ichikawa D, Kosuga T, et al.	消化器外科	Does Robotic Distal Gastrectomy Facilitate Minimally Invasive Surgery for Gastric Cancer?	Anticancer Research 2019 Sep; 39(9): 5033-8	Original Article
79	Kosuga T, Konishi T, Kubota T, et al.	消化器外科	Value of Prognostic Nutritional Index as a Predictor of Lymph Node Metastasis in Gastric Cancer.	Anticancer Research 2019 Dec; 39(12): 6843-9	Original Article
80	Ochiai T, Inoue H, Watanabe N, et al.	消化器外科	Outcome of a second hepatectomy in octogenarians with hepatocellular carcinoma recurrence: single centre's experience.	ANZ Journal of Surgery 2019 Oct ; 89(10): 1270-4	Original Article
81	Kosuga T, Konishi T, Kubota T, et al.	消化器外科	Clinical significance of neutrophil-to-lymphocyte ratio as a predictor of lymph node metastasis in gastric cancer.	BMC Cancer 2019 Dec; 19(1):1187.	Original Article
82	Shiozaki A, Ariyoshi Y, Iitaka D, et al.	消化器外科	Functional analysis and clinical significance of sodium iodide symporter expression in gastric cancer	Gastric Cancer 2019 May ; 622(3): 473-85	Original Article
83	Katsurahara K, Kosuga T, Kubota T, et al.	消化器外科	Functional Outcomes of Billroth I Gastroduodenostomy Using Linear Staplers in Totally Laparoscopic Distal Gastrectomy.	In Vivo 2019 Nov; 33(6): 1993-9	Original Article
84	Shiozaki A, Yamazato Y, Kosuga T, et al..	消化器外科	Effect of low temperature on the regulation of cell volume after hypotonic shock in gastric cancer cells	International Journal of Oncology 2019 Oct; 55(4): 905-14	Original Article
85	Kudou M, Nakanishi M, Kuriu Y, et al.	消化器外科	Value of intra-tumor heterogeneity evaluated by diffusion-weighted MRI for predicting pathological stages and therapeutic responses to chemoradiotherapy in lower rectal cancer.	Journal of Cancer 2020 Jan; 11(1): 168-76	Original Article
86	Komatsu S, Shioaki Y, Furuke H, et al.	消化器外科	Is curative gastrectomy justified for gastric cancer with cytology positive as the only stage IV factor?	Langenbecks Archives of Surgery.2019 Aug; 404(5): 599-604	Original Article
87	Matsubara D, Arita T, Nakanishi M, et al.	消化器外科	Preoperative inflammatory response as prognostic factor of patients with colon cancer.	Langenbecks Archives of Surgery 2019 Sep; 404(6): 731-41	Original Article
88	Matsubara D, Shoda K, Kubota T, et al.	消化器外科	Preoperative total cholesterol-lymphocyte score as a novel immunonutritional predictor of survival in gastric cancer.	Langenbecks Archives of Surgery 2019 Sep; 404(6): 743-52	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
89	Yamada K, Murayama Y, Kamada Y, et al.	消化器外科	Radiosensitizing effect of 5-aminolevulinic acid in colorectal cancer in vitro and in vivo.	Oncology Letters 2019 Jun; 7(6):5132-8	Original Article
90	Kudou M, Shiozaki A, Yamazato Y, et al.	消化器外科	The expression and role of TRPV2 in esophageal squamous cell carcinoma	Scientific Reports 2019 Nov; 9(1):16055	Original Article
91	Matsumoto T, Niioka H, Kumamoto Y, et al.	消化器外科	Deep-UV excitation fluorescence microscopy for detection of lymph node metastasis using deep neural network.	Scientific Reports 2019Nov; 9(1):16912.	Original Article
92	Nishibeppu K, Komatsu S, Imamura T, et al.	消化器外科	Plasma microRNA profiles: identification of miR-1229-3p as a novel chemoresistant and prognostic biomarker in gastric cancer.	Scientific Reports 2020 Feb; 10(1):3161.	Original Article
93	Konishi T, Shiozaki A, Kosuga T, et al.	消化器外科	LRRC8A Expression Influences Growth of Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	The American Journal of Pathology 2019 Oct;189(10): 1973-85	Original Article
94	Itatani K	心臓血管外科	[Adult Congenital Heart Surgery as a Novel Specialty in Thoracic Surgery; Perioperative Patient Management and Surgical Procedures]	Kyobu Geka. 2019 Apr;72(4):297-305.	Original Article
95	Yamanami M	心臓血管外科	Development of xenogeneic decellularized biotubes for off-the-shelf applications	Artif Organs. 2019 Aug;43(8):773-779. doi: 10.1111/aor.13432. Epub 2019 Mar 8.	Original Article
96	Kanzaki T	心臓血管外科	Coronary Arteriovenous Fistula Draining Into Persistent Left Superior Vena Cava	Ann Thorac Surg. 2019 Oct;108(4):e265-e267. doi: 10.1016/j.athoracsur.2019.01.08 2. Epub 2019 Mar 13.	Case report
97	Hisayuki Hongu	小児心臓血管外科	Double-decker repair of partial anomalous pulmonary venous return into the superior vena cava	J Thorac Cardiovasc Surg.2019 May;157(5):1970-1977	Original Article
98	Takako Miyazaki	小児心臓血管外科	Use of an expanded polytetrafluoroethylene valved patch with a sinus in right ventricular outflow tract reconstruction	Eur J Cardiothorac Surg.2019 Oct 1;56(4):671-678	Original Article
99	Yusuke Yamamoto	小児心臓血管外科	Histopathologic Analysis of Explanted Polytetrafluoroethylene-Valved Pulmonary Conduits	Semin Thorac Cardiovasc Surg.2019 Oct オンライン	Original Article
100	Nakamura, T., Shirouzu, T., Nakata, K., Yoshimura, N., Ushigome, H.	移植一般外科	“The Role of Major Histocompatibility Complex in Organ Transplantation – Donor Specific Anti-Major Histocompatibility Complex Antibodies Analysis Goes to the Next Stage –”	International Journal of Molecular Sciences, 20(18), 4544-4565. DOI 10.3390/ijms20184544 2019 Sep	Review
101	Mayumi Higashi	小児外科	The roles played by the MYCN, Trk, and ALK genes in neuroblastoma and neural development	Surg Today. 2019 Sep;49(9):721-727.	Review
102	Tomoko Tanaka	小児外科	Mesenchymal hamartoma of the chest wall in a 10-year-old girl mimicking malignancy: a case report	Skeletal Radiol. 2019 Apr;48(4):643-647.	Case report
103	Shigehisa Fumino	小児外科	Japanese Clinical Practice Guidelines for Sacrococcygeal Teratoma, 2017	Pediatr Int 2019 Jul;61(7):672-678.	Others

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
104	Taizo Furukawa	小児外科	Thoracoscopic resection for mediastinal thymolipoma in a child	Asian J Endosc Surg. 2019 Apr;12(2):218-221.	Case report
105	Junnosuke Maniwa	小児外科	Novel mesenchymal stem cell delivery system as targeted therapy against neuroblastoma using the TH-MYCN mouse model	J Pediatr Surg. 2019 Dec;54(12):2600-2605.	Original Article
106	Shohei Takayama	小児外科	An intra-amniotic injection of mesenchymal stem cells promotes lung maturity in a rat congenital diaphragmatic hernia model	Pediatr Surg Int. 2019 Dec;35(12):1353-1361.	Original Article
107	Maho Inoue	小児外科	Enhanced metastatic growth after local tumor resection in the presence of synchronous metastasis in a mouse allograft model of neuroblastoma	Pediatr Surg Int. 2019 Dec;35(12):1403-1411.	Original Article
108	Kiyokazu Kim	小児外科	Derivation of neural stem cells from human teratomas	Stem Cell Res. 2019 Dec;41:101633.	Original Article
109	Sowa Yoshihiro	形成外科	Involvement of PDGF-BB and IGF-1 in activation of human Schwann cells by platelet-rich plasma.	Plast Reconstr Surg. 2019 Dec 144 6 e1025-e1036 2019	Original Article
110	Sowa Yoshihiro	形成外科	Fat Grafting With Harvesting From Zone IV in the DIEP Flap.	Eplasty. 2019 May 31;19:ic14.	Original Article
111	Sowa Yoshihiro	形成外科	Medial Upper Lip Vermillion Reconstruction with a Labial Artery-based Cross-lip Vermillion Flap.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2019 Jun 25;7(6):e2279.	Case report
112	Sowa Yoshihiro	形成外科	Introducing an All-mechanized Surgical Assistant for Use in Reconstructive Surgeries.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2019 Sep 30;7(9):e2403	Letter
113	Morita Daiki	形成外科	Two Cases of the Vascular Territory of a Singlepedicled Deep Inferior Epigastric Perforator Flap with a Vertical Midline Abdominal Scar	Plast Reconstr Surg Glob Open 8 e2684 2020 Mar	Case report
114	Kawarazaki Ayako	形成外科	The HDAC inhibitor OBP-801 suppresses the growth of myxofibrosarcoma cells.	J BUON. 2020 Jan-Feb;25(1):464-471.	Original Article
115	Yuji Arai	整形外科	Early Clinical Results of Arthroscopically Assisted Drilling via the Radius in a Distal-to-Proximal Direction for Osteochondritis Dissecans of the Elbow	Orthopaedic Journal of Sports Medicine.2019 Sep;7:2325967119868937	Original Article
116	Yuta Fujii	整形外科	Treadmill Running in Established Phase Arthritis Inhibits Joint Destruction in Rat Rheumatoid Arthritis Models	International Journal of Molecular Sciences.2019 Oct;20:E5100	Original Article
117	Ryosuke Ikeda	整形外科	REV-ERB α and REV-ERB β function as key factors regulating Mammalian Circadian Output	Scientific Reports.2019Jul;9:10171	Original Article
118	Masamitsu Kido	整形外科	Reproducibility of radiographic methods for assessing longitudinal tarsal axes: Part 1: Consecutive case study.	Foot. 2019 Sep;40:1-7	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
119	Naoki Mizoshiri	整形外科	The tetraspanin CD81 mediates the growth and metastases of human osteosarcoma	Cellular Oncology .2019 Dec;42:861-871	Original Article
120	Masato Ohara	整形外科	Efficacy of electrical polarization on a rat femoral bone defect model with a custom-made external fixator	Bio-Medical Materials and Engineering.2019Jul;30(5-6):475-486	Original Article
121	Toshiharu Shirai	整形外科	A retrospective study of antibacterial iodine-coated implants for postoperative infection	Medicine (Baltimore).2019 Nov;98:e179332	Original Article
122	Ryota Takatori	整形外科	Leg Muscle Strength After Lateral Interbody Fusion Surgery Recovers Over Time After Temporary Muscle Weakness.	Clinical Spine Surgery.2019 Apr;32:E160-165	Original Article
123	Shinji Tsuchida	整形外科	Regeneration of finger bone tumor defect under the influence of porous hydroxyapatite/type 1 collagen composite implantation	The Journal of Japanese Society for Surgery of the Hand.2019Apr;36(6):1-5	Original Article
124	Yabumoto K, Ito F, Matsushima H, et al.	産婦人科	Massive prolapsed submucous fibroid treated with laparoscopic surgery: A case report	J Obstet Gynaecol Res. 2019 Apr ; 45(4):942-946	Case report
125	Takahashi Y, Matsushima H, Mori T, et al.	産婦人科	Retroperitoneal fibrosis after chemo-radiotherapy for cervical cancer: A case report	J Obstet Gynaecol Res 2019 Apr ; 45(4):938-94	Case report
126	Khan KN, Fujishita A, Koshiba A, et al.	産婦人科	Biological differences between focal and diffuse adenomyosis and response to hormonal treatment	Reprod Biomed Online 2019 Apr ; 38(4):634-646	Original Article
127	Khan KN, Yamamoto K, Fujishita A, et al.	産婦人科	Association between FOXP3(+) regulatory T-cells and occurrence of peritoneal lesions in women with ovarian endometrioma and dermoid cysts	Reprod Biomed Online 2019 Jun ; 38(6):857-869	Original Article
128	Yoriki K, Mori T, Kokabu T, et al.	産婦人科	Estrogen-related receptor alpha induces epithelial-mesenchymal transition through cancer-stromal interactions in endometrial cancer	Sci Rep 2019 May ; 9(1):6697	Original Article
129	Khan KN, Yamamoto K, Fujishita A, et al.	産婦人科	Differential levels of regulatory T-cells and T-helper-17 cells in women with early and advanced endometriosis	J Clin Endocrinol Metab 2019 Oct ; 104(10):4715-4729	Original Article
130	Akiyama K, Nishioka K, Khan KN, et al.	産婦人科	Molecular detection of microbial colonization in cervical mucus of women with and without endometriosis	Am J Reprod Immunol 2019 Aug ; 82(2):e13147	Original Article
131	Kataoka H, Mori T, Okimura H, et al.	産婦人科	Peroxisome proliferator-activated receptor- γ coactivator 1 α -mediated pathway as a possible therapeutic target in endometriosis	Hum Reprod 2019 Jun ; 34(6):1019-1029	Original Article
132	Khan KN, Fujishita A, Koshiba A, et al.	産婦人科	Biological differences between intrinsic and extrinsic adenomyosis with coexisting deep infiltrating endometriosis	Reprod Biomed Online 2019 Aug ; 39(2):343-353	Original Article
133	Mori T, Ito F, Koshiba A, Kataoka H, et al.	産婦人科	Local estrogen formation and its regulation in endometriosis.	Reprod Med Biol. 2019 Oct ; 18(4): 305-311	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
134	Taniguchi K, Kawai T, Kitawaki J, et al.	産婦人科	Epitranscriptomic profiling in human placenta: N6-methyladenosine modification at the 5'-untranslated region is related to fetal growth and preeclampsia	FASEB J. 2020 Jan ; 34(1):494-512	Original Article
135	Ito F, Kokabu T, Matsushima H, et al.	産婦人科	Protocol for a modified vaginal pipe for total laparoscopic hysterectomies: experimental research.	International Journal of Surgery Protocols. 2020 Feb ; 21: 5-7	Others
136	Takenori Tozawa	小児科	Intrathecal nusinersen treatment after ventriculo-peritoneal shunt placement: A case report focusing on the neurofilament light chain in cerebrospinal fluid	Brain and Development 42(3): 311-314. 2020 Mar	Case report
137	Rei Takada	小児科	Early infantile-onset Leigh syndrome complicated with infantile spasms associated with the m.9185T>C variant in the MT-ATP6 gene: Expanding the clinical spectrum.	Brain and Development 42(1): 69-72. 2020 Jan	Case report
138	Yui Zen	小児科	Gender differences in occurrence of behavioral and emotional problems at the lower grades of elementary school: Association with developmental and behavioral characteristics at 5 years	Brain and Development 41(9): 760-768. 2019 Oct	Original Article
139	Yasuhiro Kawabe	小児科	ACE2 exerts anti-obesity effect via stimulating brown adipose tissue and induction of browning in white adipose tissue	American Journal of Physiology - Endocrinology and Metabolism 317(6): E1140-E1149. 2019 Dec	Original Article
140	Yuki Naito	小児科	Pituitary apoplexy after cardiac surgery in a 14-year-old girl with Carney complex: a case report	Endocrine Journal 66(12): 1117-1123. 2019 Dec	Case report
141	Nozomi Takaki	小児科	Cleidocranial dysplasia with growth hormone deficiency: a case report	BMC pediatrics 20(1): 19. 2020 Jan	Case report
142	Kanae Hashiguchi	小児科	Validity of stress assessment using heart-rate variability in newborns	Pediatrics International 62(6): 694-700. 2020 Jan	Original Article
143	Azusa Mayumi	小児科	Successful treatment with 2-chlorodeoxyadenosine of refractory pediatric Langerhans cell histiocytosis with initial involvement of the gastrointestinal tract	International Journal of Hematology 110(6): 756-762. 2019 Dec	Case report
144	Kenichi Sakamoto	小児科	Negative CD19 expression is associated with inferior relapse-free survival in children with RUNX1-RUNX1T1-positive acute myeloid leukaemia: results from the Japanese Paediatric Leukaemia/Lymphoma Study Group AML-05 study	British Journal of Haematology 187(3): 372-376. 2019 Nov	Original Article
145	Shinya Osone	小児科	Supportive care for hemostatic complications associated with pediatric leukemia: a national survey in Japan	International Journal of Hematology 110(6): 743-750. 2019 Dec	Original Article
146	Tomoko Iehara	小児科	A prospective evaluation of liquid biopsy for detecting MYCN amplification in neuroblastoma patients	Japanese Journal of Clinical Oncology 49(8): 743-748. 2019 Aug	Original Article
147	Norio Nakagawa	小児科	Mutations in the RAS pathway as potential precision medicine targets in treatment of rhabdomyosarcoma	Biochemical and Biophysical Research Communications 512(3): 524-530. 2019 May	Original Article
148	Yoshihiro Nitta	小児科	Identification of a novel BOC-PLAG1 fusion gene in a case of lipoblastoma	Biochemical and Biophysical Research Communications 512(1): 49-52. 2019 Apr	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
149	Mitsuru Miyachi	小児科	Phase II study of vincristine, actinomycin-D, cyclophosphamide and irinotecan for patients with newly diagnosed low-risk subset B rhabdomyosarcoma: A study protocol	Medicine (Baltimore) 98(52): e18344. 2019 Dec	Original Article
150	Dai Asada	小児科	Efficacy of bubble contrast echocardiography in detecting pulmonary arteriovenous fistulas in children with univentricular heart after total cavopulmonary connection	Cardiology in the Young 30(2): 227-230. 2020 Feb	Original Article
151	Masashi Nishida	小児科	Kidney injury biomarkers after cardiac angiography in children with congenital heart disease	Congenital Heart Disease 14(6): 1087-1093. 2019 Nov	Original Article
152	Toshihiko Imamura	小児科	Risk-adjusted therapy for pediatric non-T cell ALL improves outcomes for standard risk patients: results of JACLS ALL-02.	Blood Cancer J. 2020 Feb 27;10(2):23. doi: 10.1038/s41408-020-0287-4.	Original Article
153	Yusuke Kita	小児科	Iodine-induced hypothyroidism in a girl with anorexia nervosa	Pediatr Int. 2019 May 61(5):528-529. doi: 10.1111/ped.13846.	Case report
154	Hiroshi Tanaka	眼科	A physical biomarker of the quality of cultured corneal endothelial cells and of the long-term prognosis of corneal restoration in patients	Nature Biomedical Engineering. 2019 Dec; 3: 953-960	Original Article
155	Yuko Cho	眼科	Multiple Linear Regression Analysis of the Impact of Corneal Epithelial Thickness on Refractive Error Post Corneal Refractive Surgery	American Journal of Ophthalmology. 2019 Nov; 207: 326-332	Original Article
156	Munetoyo Toda	眼科	In Vivo Fluorescence Visualization of Anterior Chamber Injected Human Corneal Endothelial Cells Labeled With Quantum Dots	Investigative Ophthalmology & Visual Science. Sci. 2019 Sep; 60:4008-4020	Original Article
157	Hiroki Mieno	眼科	Short axial length and hyperopic refractive error are risk factors of central serous chorioretinopathy	Experimental Eye Research. 2019 Nov; 188: 107789 (オンライン)	Original Article
158	Mayumi Ueta	眼科	Gene expression analysis of conjunctival epithelium of patients with Stevens-Johnson syndrome in the chronic stage	BMJ Open Ophthalmology.2019 Jun; 16: e000254 (オンライン)	Original Article
159	Yoichirou Shinkai	眼科	Multicenter survey of sutureless 27-gauge vitrectomy for primary rhegmatogenous retinal detachment: a consecutive series of 410 cases	Graefe's Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology. 2019 Dec; 257: 2591-2600.	Original Article
160	Nakamura Naomi	皮膚科	Stratum corneum interleukin-33 expressions correlate with the degree of lichenification and pruritus in atopic dermatitis lesions.	Clinical Immunology 2019 April Online	Original Article
161	Hotta Eri	皮膚科	Platelets are important for the development of immune tolerance: possible involvement of TGF- β in the mechanism.	Experimental Dermatology 28(7); 801-808, 2019 Jul	Original Article
162	Asai Jun	皮膚科	Treatment rationale and design of a phase II study of narrow-band ultraviolet B phototherapy for cutaneous steroid-refractory acute graft-vs-host disease following allogeneic stem-cell transplantation.	Medicine 98(28); e16372, 2019 July	Original Article
163	Yamada Y, Fujihara A, Shiraishi T, et al	泌尿器外科学	Magnetic resonance imaging/transrectal ultrasound fusion-targeted prostate biopsy using three-dimensional ultrasound-based organ-tracking technology: Initial experience in Japan	Int J Urol. 2019 May; 26(5):544-549	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
164	Hongo F, Okihara K, Kitamura K, et al	泌尿器外科学	Prostate cancer meeting the Japanese active surveillance criteria and diagnosed by community-based prostate-specific antigen screening: A 21-year follow-up study	Int J Urol. 2019 Aug; 26(8):827-832	Original Article
165	Elrabie Ahmed M, Bando H, Fuse S, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Differential isoform expression of SERCA and myosin heavy chain in hypopharyngeal muscles	Acta Otolaryngologica Italica, 2019.5	Original Article
166	Takenaka M, Arai A, Yoshizawa K, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Feasibility of Combination of Paclitaxel, Carboplatin, and Cetuximab as Induction Chemotherapy for Advanced Head and Neck Squamous Cell Carcinoma	Clinics in Oncology, 2019.10(オンライン)	Original Article
167	Yoshihiro Matsumoto	精神科・心療内科	Frequency and predictors of perioperative psychiatric symptom worsening among patients with psychiatric disorders.	Comprehensive Psychiatry. 2019 Nov;95:152138.	Original Article
168	Anri Watanabe	精神科・心療内科	A Case of Fetal Tachycardia after Electroconvulsive Therapy: A Possible Effect of Maternal Hypoxia and Uterine Contractions.	Case Reports in Psychiatry. 2019 Jul 4;2019:3709612.	Case report
169	Teruyuki Matsuoka	精神科・心療内科	Prevalence of Mild Behavioral Impairment and Risk of Dementia in a Psychiatric Outpatient Clinic.	Journal of Alzheimer's disease. 2019 Jul; 70(2): 505-513.	Original Article
170	Suzuki Gen,Masui Koji,Yamazaki Hideya,et al.	放射線科	Abscopal effect of high-dose-rate brachytherapy on pelvic bone metastases from renal cell carcinoma: a case report	J Contemp Brachytherapy.2019 May;11:458-461	Case report
171	Suzuki Gen,Ogata Toshiyuki,Aibe Norihiro,et al.	放射線科	Effective heart-sparing whole lung irradiation using volumetric modulated arc therapy: a case report	Journal of Medical Case Reports.2019 Sep;13:277	Case report
172	Suzuki Gen,Yamazaki Hideya,Aibe Norihiro,et al.	放射線科	Definitive Radiotherapy for Older Patients Aged ≥75 Years With Localized Esophageal Cancer	In Vivo.2019 May- June;33(3):925-932	Original Article
173	Yamazaki Hideya,Masui Koji,Suzuki Gen,et al.	放射線科	Influence of transitioning of planning techniques in high-dose-rate brachytherapy monotherapy for clinically localized prostate cancer from two- to three-dimensional planning	Brachytherapy.2019 Sep- Oct;18(5):589-597	Original Article
174	Goto Mariko,Lebihan Denis,Yoshida Mariko,et al	放射線科	Adding a model-free diffusion MRI marker to BI-RADS assessment improves specificity for diagnosing breast lesions	Radiology.2019 July;292(1):84-93	Original Article
175	Ikeno Hiroyasu,Sakai Koji,Imai Hiroshi,et.al.	放射線科	Effects of different fat-suppression methods on T1 values in dynamic contrast-enhanced magnetic resonance imaging: a phantom study	Radiological Physics and Technology.2019 Jul;12(3):335-342	Original Article
176	Saba Rie,Kitajima Keiko,Rainbow Lucille,et al.	放射線科	Endocardium differentiation through Sox17 expression in endocardium precursor cells regulates heart development in mice	Scientific Reports 2019 Aug;9: 11953	Original Article
177	Tamaki Nagara.	放射線科	Ischemia and inflammation on chronic kidney disease	J Nucl Cardiol. 2019 Apr;26(2):441-442.	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
178	Tamaki Nagara,Matsu shima Shigenori,Nis himura Motoki.	放射線科	Value of simultaneous assessment of cardiac functions by PET/MRI	J Nucl Cardiol. 2019 Dec;26(6):1958-1961	Review
179	Sawa Teiji	麻酔科	Immunoglobulin for Treating Bacterial Infections: One More Mechanism of Action.	Antibodies. 2019 Nov;8(4),52.	Original Article
180	Iida Jun	麻酔科	Hyperglycaemia augments lipopolysaccharide- induced reduction in rat and human macrophage phagocytosis via the endoplasmic stress-C/EBP homologous protein pathway.	Brit J Anaesth. 2019 Jul;123(1):51-59.	Original Article
181	Kinoshita Mao	麻酔科	Epidemiological survey of serum titers from adults against various Gram-negative bacterial V-antigens.	PLoS One. 2020 Mar;15(3):e0220924.	Original Article
182	Shimizu Masaru	麻酔科	Reduction of the rocuronium-induced withdrawal reflex by MR13A10A, a generic rocuronium with a novel solution: A randomized, controlled study.	PLoS One. 2019 Oct;14(10):e0223947.	Original Article
183	Yamashita Ayahiro	集中治療部	Dysregulation of p53 and parkin induce mitochondrial dysfunction and leads to the diabetic neuropathic pain.	Neuroscience. 2019 Sep;416:9-19.	Original Article
184	Hayase Kazuma	麻酔科	Hierarchical Poincaré analysis for anaesthesia monitoring.	J Clin Monit Comput. 2019 Dec (オンライン)	Original Article
185	Mihara Toshihito	麻酔科	Secondary in-hospital epidemiological investigation after an outbreak of Pseudomonas aeruginosa ST357.	J Infect Chemother. 2020 Mar;26(3):257-265.	Original Article
186	Takeshita Shusuke	麻酔科	Prohemostatic Activity of Factor X in combination with Activated Factor VII in Dilutional Coagulopathy.	Anesthesia & Analgesia. 2019 Aug;129(2):339- 345.	Original Article
187	Matsuoka Uta	疼痛・緩和ケア科	NLRP2 inflammasome in dorsal root ganglion as a novel molecular platform that produces inflammatory pain hypersensitivity	Pain 160(9): 2149-2160, 2019.Sep	Original Article
188	Yamashita Ayahiro	麻酔科	Dysregulation of p53 and Parkin Induce Mitochondrial Dysfunction and Leads to the Diabetic Neuropathic Pain	Neuroscience 416: 9-19, 2019.Sep	Original Article
189	Takeshita Syusuke	麻酔科	Whole Blood Point-of-care Testing for Incomplete Reversal with Idarucizumab in Supratherapeutic Dabigatran	Anesth Analg 130(2); 535-541, 2020.Feb	Original Article
190	Takeshita Syusuke	麻酔科	Prohemostatic Activity of Factor X in combination with Activated Factor VII in Dilutional Coagulopathy	Anesth Analg 129(2); 339-345, 2019.Aug	Original Article
191	Mukai Nobuhiro	麻酔科	Cold storage conditions modify microRNA expressions for platelet transfusion	PLoS ONE 14(7): e0218797, 2019.July	Original Article
192	Tasuku Matsuyama	救急医療学教室	Pre-Hospital Administration of Epinephrine in Pediatric Patients With Out-of-Hospital Cardiac Arrest	JOURNAL OF AMERICAN COLLEGE OF CARDIOLOGY 2020.2	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
193	Tasuku Matsuyama	救急医療学教室	Impact of Low-Flow Duration on Favorable Neurological Outcomes of Extracorporeal Cardiopulmonary Resuscitation After Out-of-Hospital Cardiac Arrest	Circulation 2020.March	Letter
194	Tasuku Matsuyama	救急医療学教室	Sex-Based Disparities in Receiving Bystander Cardiopulmonary Resuscitation by Location of Cardiac Arrest in Japan	MAYO CLINIC PROCEEDINGS 2019.6	Original Article
195	Inamori Osamu, Miyagawa-Hayashino A, Ueno A, et al.	病理診断科	Fulminant hepatitis as a immune-related adverse event after nivolumab treatment.	Pathology International. 69 (7) 434-436, 2019 Jul.	Original Article
196	Watanabe Hiroshi, Miyagawa-Hayashino A, Imabayashi T, et al.	病理診断科	A rare case of pulmonary typical carcinoid with prominent acinic cell differentiation, resembling acinic cell carcinoma.	Pathology International. 69 (12) 721-726, 2019 Dec.	Case report
197	Masuzawa Naoko, Nishimura A, Mihara Y, et al.	病理診断科	Clinicopathological analysis of ANCA-associated glomerulonephritis focusing on plasma cell infiltrate.	Clinical and Experimental Nephrology. 23 (12) 1373-1381, 2019 Dec.	Original Article
198	Konishi Tomoki, Shiozaki A, Kosuga T, et al.	消化器外科	LRRC8A Expression Influences Growth of Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	The American Journal of Pathology. 189 (10) 1973-1985, 2019 Oct.	Original Article
199	Yoshimura Akihiro, Yamada T, Miyagawa-Hayashino A, et al.	呼吸器内科	Comparing three different ant-PD-L1 antibodies for immunohistochemical evaluation of small cell lung cancer.	Lung Cancer. 137 108-112, 2019 Nov.	Original Article
200	Shigata Takizawa	歯科口腔科学	Transplantation of dental pulp-derived cell sheets cultured on human amniotic membrane induced to differentiate into bone.	Oral Disease, 2019 Jul;25(5):1352-1362.	Original Article
201	Toshiro Yamamoto	歯科口腔科学	Effects of oral care on perioperative pediatric cancer patients.	Dental, Oral and Craniofacial Research, 2019 Jul;5(3):1-6.	Original Article
202	Satoshi Horiguchi	歯科口腔科学	Osteogenic response of mesenchymal progenitor cells to natural polysaccharide nanogel and atelocollagen scaffolds: A spectroscopic study.	Materials science & engineering. C, Materials for biological applications, 2019 Jun;99:1325-1340.	Original Article
203	Komei Iwai	歯科口腔科学	Association between Helicobacter pylori infection and dental pulp reservoirs in Japanese adults.	BMC Oral Health, 2019 Dec 2;19(1):267.	Original Article

小計 11

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
204	Ryutaro Ono	歯科口腔科学	Incremental growth lines in mouse molar dentin represent 8-hr Ultradian rhythm.	Acta Histochemica et Cytocheimca, 2019 Dec 27;52(6):93-99.	Original Article
205	Tohru Inaba	臨床検査部	Detection of Jordans' anomaly using compact-type automated hematology analyzer.	nternational Journal of Hematology 2019 Aug 110; 129-30.	Others
206	Tohru Inaba	臨床検査部	Minor population with cytoplasmic CD3 expression in acute unclassified leukemia.	Cytometry Research Jul 2019 Jul 29;7-8,	Case report

小計 3

計 206

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	-	-	-	-	Original Article

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 学長の業務、研究者等の責務等、研究責任者の業務、他機関への既存資料・情報等の提供、審査委員会の事務・審査記録の保存、講習の受講、データベースの登録	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 「京都府公立大学法人の利益相反の管理に関する規程」…利益相反の管理や判断基準等を規定 「京都府立医科大学利益相反委員会規程」…設置目的や組織編成等について規定 「京都府立医科大学臨床研究に係る利益相反の管理に関する取扱規程」…臨床研究における利益相反の管理について規定	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年10回
・ 研修の主な内容（主な演題は以下のとおり） 「臨床研究法と人を対象とする医学系研究に関する倫理指針への対応」 「臨床研究法と人を対象とする医学系研究に関する倫理指針の理解と支援」 「研究研究における公正とは」 「医療倫理の諸原則と臨床倫理の方法論」 「臨床研究ではなぜ有害事象報告（疾病等報告）が必要か？」	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科において、専門医・認定医取得のための高度な医療知識・スキルを習得させる。
(プログラムは各科ごとに作成)

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	233人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
山口 寛二	消化器内科	助教 (学内講師)	23年	
中村 猛	循環器内科	准教授	25年	
塩津 弥生	腎臓内科	助教 (学内講師)	16年	
金子 美子	呼吸器内科	助教	20年	
山崎 真裕	内分泌・糖尿病・代謝内科	講師	24年	
志村 勇司	血液内科	助教 (学内講師)	14年	
和田 誠	膠原病・リウマチ・アレルギー科	助教	22年	
田中 瑛次郎	脳神経内科	助教	14年	
塩崎 敦	消化器外科	助教 (学内講師)	23年	
沼田 智	心臓血管外科	講師	25年	
前田 吉宣	小児心臓血管外科	助教	20年	
下村 雅律	呼吸器外科	講師	18年	
森田 翠	内分泌・乳腺外科	助教	12年	
昇 修治	移植・一般外科	講師	22年	
古川 泰三	小児外科	准教授	25年	
素輪 善弘	形成外科	講師	17年	
立澤 和典	脳神経外科	講師	26年	
白井 寿治	整形外科	准教授	24年	
森 泰輔	産婦人科	准教授	19年	
森 潤	小児科	助教 (学内講師)	12年	
鎌田 さや花	眼科	助教	15年	
浅井 純	皮膚科	講師	19年	
山田 剛司	泌尿器科	助教 (学内講師)	14年	
新井 啓仁	耳鼻咽喉科	講師	17年	
阿部 能成	精神科・心療内科	助教	10年	
高畑 暁子	放射線科	助教	19年	
石井 祥代	麻酔科	助教 (学内講師)	16年	
小川 寛	疼痛・緩和ケア科	講師	14年	
沢田 光思郎	リハビリテーション科	講師	17年	
山畑 佳篤	救急医療科	講師	22年	
山本 俊郎	歯科	講師	24年	
森永 友紀子	病理診断科	助教	13年	
笠松 悠	感染症科	助教	15年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

H31. 4. 1 研修医に必要な ME 機器取り扱い知識 90 名
H31. 4. 6-7 輸血療法研修会 160 名
R1. 5. 9 ICU 人工呼吸器研修 21 名
R1. 5. 14 診療用放射線照射装置研修 21 名
R1. 5. 16 A7, C7, D7 病棟人工呼吸器 VELA 取扱研修会 70 名
R1. 5. 17 手術部人工心肺研修基礎編 8 名
R1. 5. 20 ICU 人工呼吸器研修 4 名
R1. 5. 31 PICU, 小児医療センター人工呼吸器研修 18 名
R1. 6. 5 医療電子機器について（新任看護師） 79 名
R1. 6. 11 PICU, 小児医療センター人工呼吸器研修 10 名
R1. 6. 17 ICU ペースメーカ研修 11 名
R1. 6. 17 救急部人工呼吸器研修 35 名
R1. 6. 19 診療用粒子線照射装置犬種 30 名
R1. 7. 22 ICU Impella 研修 24 名
R1. 7. 25 PICU, 小児医療センターNPPV・HFNC 研修 22 名
R1. 8. 26 診療用高エネルギー放射線発生装置研修 15 名
R1. 9. 9-11 新規導入 NPPV 機器 NKV300 研修 43 名
R1. 9. 20 ICU 血液浄化研修 3 名
R1. 9. 24 C5 人工呼吸器研修 22 名
R1. 10. 9 救急部 ECMO 勉強会 31 名
R1. 11. 20 C5 血液浄化(透析)研修 22 名
R1. 11. 27 ICU IABP 研修 31 名
R1. 11. 27 C5 血液浄化(アフレス)研修 22 名
R1. 12. 3 手術部人工心肺研修基礎編 13 名
R2. 1. 8 C5 人工呼吸器研修 7 名
R2. 1. 24-31 こども西青病棟 人工呼吸器研修 26 名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
管理責任者氏名	病院長 夜久 均	
管理担当者氏名	事務部長 四辻 直樹	

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	項 規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	診療情報管理室 病棟 調剤室 フィルム庫 病院管理課 ・平成20年1月から電子カルテシステムを導入。 ・それ以前の紙カルテ（手術記録、看護記録、検査所見記録、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の経過記録の要約等）は診療情報管理室、処方箋は調剤室、エックス線フィルムはフィルム庫保管している。 ※診療録を病院外に持ち出すことは「診療記録貸出・返却要領」で禁止している。
		各科診療日誌	
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	
病院の管理及び運営に関する諸記録	項 規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	経営企画課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課
		高度の医療の研修の実績	病院管理課
		閲覧実績	病院管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績	経営企画課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経営企画課 薬剤部
	に 規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療機器管理部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器管理部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器管理部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器管理部 医療安全管理部	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	法人本部総務室
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	法人本部総務室
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人本部総務室

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院管理課長 池邊 俊之	
閲覧担当者氏名	病院管理課副課長 片山 和彦	
閲覧の求めに応じる場所	病院管理課 総務調整担当	
閲覧の手続の概要		
閲覧請求者の住所、氏名、請求記録名、閲覧理由を聴取した上で、請求のあった記録を所管する部署から該当資料を取り寄せ、病院管理課内で閲覧に供する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11 第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
- 指針の主な内容： - 医療事故を防止し、安全かつ適切な医療を提供する体制 - 安全管理のための基本的な考え方 - 安全管理のための組織 - 医療事故発生時の対応 - 医療事故及びインシデント報告制度 - 職員の教育・研修及び啓発 - 患者相談窓口 - 患者本位の医療の提供 - 診療行為に内在する危険防止のために必要な情報を患者に提供	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 - 設置の有無（有・無） - 開催状況：年 12 回 - 活動の主な内容： - 安全管理のための指針の策定及び変更 - 院内で発生した医療事故、インシデントの調査分析、再発防止策の立案・実施 - 安全管理のための教育・研修及び啓発の検討	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 16 回
- 研修の内容（すべて）： - 医薬品の安全管理に関する最近の話題 - 後発薬のススメ ～知って得する 後発薬との上手な付き合い方 - 診療記録に関する内容 - コミュニケーションを問い直す ～安全の基本について考えよう - 医療安全と医療事故調査制度 - 医療安全と臨床倫理の関わり - 汎用される医療機器に関連したトラブル	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況 - 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） - その他の改善のための方策の主な内容： - オカレンス報告の実施 - 職員間での情報共有と注意喚起のためのインシデント事例等を掲載した「医療安全管理部ファイル」の作成 供覧 - 医療安全レターによる情報提供と注意喚起 - 急変対応ワーキングチームによるシステムの見直し、院内蘇生講習 - 医療安全のための院内ラウンドの実施	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 院内感染対策に関する基本的な考え方 ・ 院内感染対策のための委員会その他の当該病院等の組織に関する基本的事項 ・ 院内感染対策のための従事者に対する研修に関する基本方針 ・ 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 ・ 院内感染発生時の対応に関する基本方針 ・ 患者への情報提供と説明に関する基本方針 ・ 病院における院内感染対策の推進における基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： ・ 感染症発生状況（対応状況も含む） ・ MRSA等耐性菌の発生状況報告（対応状況も含む） ・ 抗MRSA薬等の使用状況報告（適正使用に関する指導状況も含む） ・ その他院内感染対策の推進に関する方策の検討	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年13回
・ 研修の内容： ・ もっと知りたい耐性菌 ・ 薬剤耐性時代の“かぜ”診療 ・ いろいろな感染対策と結核の説明書 ・ インフルエンザのくすりと感染対策 ・ 新型コロナウイルス感染症 わかっていること。わかっていないこと。 ・ 小児医療センター感染対策&抗菌薬適正使用研修会	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無） 各所属に「感染対策推進員」を配置し、年4回の合同会議の開催を計画し、院内感染対策の推進を図っている。 さらに看護部門には推進員とは別に「リンクナース」を配置し、2か月～3か月に1回の定期的な会を開催し院内感染対策の推進を図っている。 また、感染症情報やその対応について、院内主要会議でのアナウンスを行い、電子カルテシステムの掲示板の活用等の手段により随時周知徹底を図っている。 1月以降は、新型コロナウイルス感染症患者の受入れに伴い、マニュアルを整備してこれらもカルテ掲示板から見やすいように工夫し周知した。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年7回
・ 研修の主な内容： <全職員対象> ○医薬品安全管理セミナー「最近の医薬品安全対策」 講演：2019/5/17：193名、DVD集合：47名、DVD貸出：460名、計700名 ○医薬品安全管理セミナー「後発薬のススメ」 講演：2019/5/23：113名、DVD集合：53名、DVD貸出：510名、計676名 ○新規採用者向け研修 講演：2019/4/1：91名、UBpoint：53名、計144名 ○抗菌薬適正使用推進研修会「インフルエンザのくすりと感染対策」 講演：2019/11/13：141名 <医師対象> ○研修医対象「医薬品の取扱い」 開催日：2019/4/1：90名 <看護師対象> ○新人看護職員対象「医薬品の取扱い」 開催日：2019/4/4・5：86名 <薬剤師対象> ○新人薬剤師対象「医薬品の適正使用と適正管理」 開催日：2019/4/2：5名 <その他> ・病棟薬剤師による各病棟での学習会等（17回、計179名） ・担当薬剤師による手術室新規配属医師への麻薬・筋弛緩薬の取扱い（12回、計37名）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 1) 業務手順書に基づく年2回の業務チェックと手順書の見直し ・係長以上で年2回、業務手順書の再点検をし、医療に関する安全管理対策会議に諮った上で手順書を改定 2) 医薬品安全管理に関する院内ラウンド ・係長以上で年1回、全部署を訪問。手順書に基づく業務の遂行、特に医薬品や鍵、注射シリンジ等の管理状況、救急カート薬や備品の安全な使用、口頭指示の適切な運用、薬剤部から発信している情報の共有状況、輸液ソフトバックを取り扱う際のピンホールの有無のチェック、PTPシートの誤飲対策等を確認	

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☒ 有 ☐ 無)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例：
ハブリックス（A型肝炎ワクチン）、タイフィム（腸チフスワクチン）、
ベロラボ（狂犬病ワクチン）、プリオリックス（麻疹・風疹・ムンプスワクチン）
ブーストリックス（破傷風・百日咳・ジフテリアワクチン）を渡航ワクチン外来で使用
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 1) 未承認薬、適応外処方等の情報収集等
 - ①医学倫理審査委員会、臨床倫理委員会でのかかわり
 - ・ 未承認薬及び適応外処方の審査及び安全な投与に向けた介入
 - ②薬剤部内・病棟内でのかかわり
 - ・ 未承認薬の持込 → 入退院センター業務、病棟薬剤業務、DI業務の中で把握
 - ・ 病棟での適応外使用 → 病棟薬剤業務の中で把握
 - 2) 院内での医薬関連事故等の把握と対策
 - ①医療に関する安全管理対策委員会、医療安全サポート会議での検討（各月1回）
 - ②医薬品安全管理委員会での検討（月2回）
 - ・ アクシデント事例、ヒヤリハット事例の共有と対策の立案
 - ・ 未承認薬の処方状況の把握と共有
 - 3) 薬剤部での通常の実施（主なもの）
 - ①DIニュースの発行（月1回）
 - ②緊急安全性情報・安全性速報、厚労省医薬品・医療機器等安全性情報の他、重要な通知に関する電子カルテへの掲示、院内配布
 - ③重要な情報は患者を特定し処方医に文書で通知し、確認印の押されたものを薬剤部で回収
 - ④粉碎・一包化の可否情報、麻薬Q&A等薬剤部で加工した文書の電子カルテへの掲示
 - ⑤向精神薬の重複処方・過剰処方のモニタリングと注意喚起
 - ⑥注射薬ラベルへのルート・フィルター選択上の注意記載
 - ⑦トレーシングレポートシステムの推進
 - 4) 薬剤部での新たな取組
 - ①院内・院外処方箋への自動車運転等に関する注意メッセージ表示（2019/7）
 - ②非薬剤師の倫理研修実施（2019/12）

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年25回
・ 研修の主な内容： 人工呼吸器の取扱い、人工呼吸管理、補助循環、ペースメーカー、新規導入機器、血液浄化、汎用型医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、吸引器）、人工心肺、放射線機器、他	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： MEセンターによる年2回の定期点検(約4600台) 特定保守管理機器のメーカー点検(9品目74台)実施済	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 院内での医療機器に関する医療事故関連情報の把握：医療安全サポート会議(1回/月) ・ 消化器内視鏡室での内視鏡関連機器の運用状況把握 ・ 医療機器管理部からの医療機器関連安全並びに取扱い方法に関する情報の発信：MEセンター通信の発行(6回/年)	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
・ 責任者の資格 (医師) 歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全担当の副病院長、医療安全管理部部長、医療に関する安全管理対策委員会の委員長として病院全体の安全に関わる事柄を統括し指示・指導を行っている。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(3名)・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品情報室において、院内の医薬品の使用状況を月1回確認している。その結果を踏まえて、添付文書情報(禁忌等)、緊急安全性情報、未承認医薬品の使用時又は医薬品の適応外使用時の安全管理に係る情報を整理し、医薬品安全管理責任者に報告する。 緊急安全性情報、医薬品・医療機器等安全性情報、医薬品の回収情報など周知徹底の必要な情報は、既に電子媒体や紙媒体など複数の方法によって確実に速やかに提供している。 特に重要な情報については、処方患者を特定し処方医に注意文書を配布するとともに、処方医に閲覧印を取った後、回収することによって、周知を徹底している。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 申請書、同意書の確認。 使用の妥当性に関する情報収集と事前審査。 使用後のモニタリング。 ・ 担当者の指名の有無 (有・無) ・ 担当者の所属・職種： (所属：薬剤部， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容	

：毎月3診療科について診療録を確認し、定められた事項の遵守状況の点検を行い、必要時、指導を行っている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	☒ 有 ☐ 無
・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 「退院時要約」、「手術記録」、「入院診療計画書」、「継続看護記録」について作成の有無を確認するなど診療記録の量的点検に取り組んでいる。 また、「診療記録記載指針」を策定し、記載すべき項目や留意点を示して職員研修を実施するとともに、医師、看護師、コメディカルからなるWGにより診療記録の点検及び意見交換を行い、その結果を各所属にフィードバックすることで、診療記録の質的向上にも取り組んでいる。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	☒ 有 ☐ 無
・ 所属職員：専従（5）名、専任（1）名、兼任（8）名 うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（1）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（2）名 うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（1）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： ・ 医療事故、インシデント、オカレンスに係る報告のとりまとめ ・ 医療事故、インシデントの発生原因の調査、分析 ・ 安全対策の実施状況、医療事故発生時の対応状況に関する調査、確認、指導 ・ 安全管理のための教育、研修の実施 ・ 安全対策の推進 ・ 院内死亡事例の確認と病院長への報告 ・ インフォームド・コンセント実施要綱に従った説明同意書の作成推進と要綱の遵守状況の点検 * 集中治療部門、手術部門で一定の基準以上の事象が発生した事例の把握（オカレンス報告）、入院患者の転倒・転落発生率・心肺蘇生実施の把握などのモニタリングの実施 ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（１件）、及び許可件数（１件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・ 活動の主な内容：
高難度新規医療技術による医療を行う場合に、実施の適否等について審査及び承認を行うほか、当該医療を行う職員の遵守事項等の遵守状況を実施結果報告書により確認している。
高難度新規医療技術導入審査委員会１回開催
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（１３件）、及び許可件数（１３件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・ 活動の主な内容：未承認薬等を使用する医療を行う場合に、実施の適否等について審査及び承認を行うほか、当該医療を行う職員の遵守事項等の遵守状況を実施結果報告書により確認している。
臨床倫理承認委員会７回開催
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 311 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実

及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：

年アクシデント報告 57 件、オカレンス報告 158 件 計 215 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

死亡診断書と「医療事故該当性の主治医チェック表」の提出（報告）後、医療安全管理部副部长（医師）と安全管理推進者が診療録を確認した後、医療安全管理部部内会議で医療事故該当性について検討を行う。その情報を元に医療に関する安全管理対策委員会（医療安全管理委員会）で検討し、医療事故該当性について最終的な判断を行う。早急な対応が必要な場合緊急の対策委員会を開催する。

手術室、ICU、PICU で一定の基準を定めオカレンス報告を実施。アクシデント報告・オカレンス事例について医療に関する安全管理対策委員会で報告・検討を行っている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：秋田大学医学部附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：愛媛大学医学部附属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況

令和元年 10 月 15 日に愛媛大学医学部附属病院から 9 名の調査員の訪問を受け入れ、書類審査、ヒアリング等が行われた。主な確認内容は、①医療安全体制②高難度新規医療技術を用いた医療の提供③医薬品等の安全管理体制④監査委員会の業務結果及び指摘事項への対応状況であった。

① に関して助言内容

- ・医師からの報告件数が比較的に少ないため、職種に偏りのない報告する文化の育成を検討いただきたい。→（助言に対する実施状況）インシデントレポートを活かした取組の紹介など「Good Letter」を定期的に発行、インシデントレポートシステム更新の際、合併症報告書を作成することで、医師が報告しやすいように工夫をした。インシデントレポートを出された医師には、医療安全管理部からのコメントを必ず送るようにしている。
- ・死亡時のスクリーニングシートに高難度新規医療技術の施行や未承認新薬などの使用についても記載できるように検討いただきたい。→（助言に対する実施内容）スクリーニングシートには、情報が多く入っていることから、さらなる項目の追加は行わず、医療安全管理委員会にて、実施結果報告を毎月全例行うこととしている。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

「患者相談等に関する要綱」に基づき、平成 15 年 4 月 1 日から「患者相談窓口」（医療サービス

課所管)を設置し、事務職員、PSW・MSWが、平日の8時45分から17時まで対応している。

その際に、患者、家族等からの相談、要望、意見等を専門の相談員又は安全管理推進者がお聞きして支援することとしている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

全職員を対象とした医療安全研修会として、医療事故調査制度やインシデント・アクシデントの具体的事例の改善策、安全な医療を行うために必要な知識、医療と法律に関する内容について研修を実施した。また、新採用者、研修医に対しては、インシデント・アクシデント報告の流れ、具体的事例の改善策についての研修を実施した。

研修内容

- ・新人看護職員対象「医療安全の基本について」 86名
- ・研修医、新採用医師、新採用医療技術職対象「医療安全対策について」234名
- ・全職員対象「医薬品の安全対策」受講者数(集合研修、DVD)871名
 - 「後発薬のススメ」受講者数(集合研修、DVD)921名
 - 「診療記録記載指針」受講者数(集合研修、DVD)552名
 - 「コミュニケーションを問い直す」受講者数(集合研修、DVD)1058名
 - 「医療安全と医療事故調査制度」受講者数(集合研修、DVD)463名
 - 「医療安全と臨床倫理問題」受講者数(集合研修、DVD)380名
 - 「汎用される医療機器に関連したトラブル」受講者数(集合研修、DVD)150名

(注) 前年度の実績を記載すること(⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者、医療機器安全管理責任者:

日本医療機能評価機構 令和元年度特定機能病院管理者研修受講(2019/12/17-18)

医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者:

日本医療機能評価機構 令和元年度特定機能病院管理者研修受講(2020/1/7)

(注) 前年度の実績を記載すること(⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

- ・ 基準の主な内容
 - (1) 学内外を問わず、日本国の医師免許を有する者
 - (2) 附属病院の理念及び基本方針に基づいた病院運営を行う能力を有する者
 - (3) 医療安全管理業務の経験、患者の安全を第一に考える姿勢及び指導力等を有する者
 - (4) 病院での組織管理経験及び高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有する者
- ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）
- ・ 公表の方法
法人のホームページで公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 ・ ☒ 無			
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ） ・ 公表の方法 法人のホームページで公表				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の 関係
中井 敏広	公立大学法人本部		選考等に関する規程第2条第3項第1号	☒ 有 ・ ☐ 無
竹中 洋	京都府立医科大学	○	選考等に関する規程第2条第3項第2号	☒ 有 ・ ☐ 無
奥田 司	同 分子生化学		選考等に関する規程第2条第3項第3号	☒ 有 ・ ☐ 無
夜久 均	同 附属病院		選考等に関する規程第2条第3項第4号	☒ 有 ・ ☐ 無
佐和 貞治	同 附属病院 医療安全管理部		選考等に関する規程第2条第3項第5号	☒ 有 ・ ☐ 無
藤本 早和子	同 附属病院看護部		選考等に関する規程第2条第3項第6号	☒ 有 ・ ☐ 無
四辻 直樹	同 附属病院事務部		選考等に関する規程第2条第3項第6号	☒ 有 ・ ☐ 無
岡村 吉隆	誠佑記念病院		選考等に関する規程第2条第3項第7号	有 ・ ☒ 無
古家 仁	奈良県立医科大学 附属病院		選考等に関する規程第2条第3項第7号	有 ・ ☒ 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
・合議体の主要な審議内容 (1) 京都府立医科大学附属病院の運営方針に関すること。 (2) 附属病院の中期計画・年度計画に関すること。 (3) 附属病院の予算・決算に関すること。 (4) その他附属病院の運営に関する重要な事項に関すること。 ・審議の概要の従業者への周知状況 会議での審議の概要については、臨床部長会等で周知を行う。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
夜久 均	○	医師	病院長
佐和 貞治		医師	副病院長 医療安全管理部長
田尻 達郎		医師	副病院長
加藤 則人		医師	副病院長
藤本 早和子		看護師	副病院長、看護部長
四方 敬介		薬剤師	薬剤部長
轟 英彦		放射線技師	医療技術部長
四辻 直樹		事務	事務部長
池邊 俊之		事務	病院管理課長
菱木 智一		事務	経営企画課長
澤村 友一		事務	医療サービス課長
田川 裕隆		事務	総務課長
四方 裕二		事務	経理課長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

京都府立医科大学附属病院規程（平成30年4月1日 京都府立医科大学規程第369号）の制定

- ・ 公表の方法

学内HPに掲載（他の大学規程と同様の取扱い）

- ・ 規程の主な内容

附属病院の運営上必要な組織、職、業務内容、その他附属病院の管理・運営等に必要な事項を定めるもの

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

管理者をサポートする体制として、以下の会議を規程により設置

- ・ 病院管理運営会議（病院の運営方針等を決定する合議体。病院長、副病院長等で構成）
- ・ 病院経営改善推進会議
（病院の経営改善の方針、運営を審議。学長、副学長、病院長、副病院長等で構成）
- ・ 病院経営改善企画会議
（病院の運営方針の企画、管理運営を審議。病院長、副病院長等で構成）
- ・ 臨床部長会（病院の運営、診療を審議。診療部長等で構成）

他に、個別の課題に対応するため、医療材料検討委員会や病床運用検討委員会など、病院長、担当副病院長が出席する委員会を設置している。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

- ・ 病院長の指名により副病院長、薬剤部長、医療技術部長等の管理職員を配置している。
また、中央部門の長等及び各種委員会の委員についても病院長が指名している。
- ・ 病院長、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者について、日本医療機能評価機構による「特定機能病院管理者研修」を受講
- ・ 外部講師による「病院経営改善セミナー」に病院長及び管理職員が参加

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					有・無	
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： ・ 病院の医療安全管理部、医療に関する安全対策委員会、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者等の業務の状況について、病院長から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を行う。 ・ 必要に応じ、医療に係る安全管理については是正措置を講ずるよう意見を表明する。 ・ 監査の結果について速やかに公表する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無） ・ 委員名簿の公表の有無（有・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法：京都府公立大学法人のホームページに掲載						
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）						
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況	
松村 由美	京都大学医学 部附属病院	○	特定機能病院の医療 安全管理体制に精通 している。	有・無	1	
平野 哲郎	立命館大学法 科大学院法務 研究科		法律研究者として関 係の法律に精通して いる。	有・無	1	
佐藤 恵子	京都大学医学 部附属病院		生命倫理学の観点か ら医療問題に精通し ている。	有・無	1	
秋篠 憲一			本院の患者として医 療を受ける者の代表	有・無	2	

- （注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・ 体制の整備状況及び活動内容

京都府公立大学法人コンプライアンス推進規程
京都府公立大学法人コンプライアンス委員会設置要綱

公立大学法人総務・経営担当理事を委員長とし、法人所管の 2 大学の学長、法人の教職員の身分を有していない理事のほか、コンプライアンスに関する有識者で構成するコンプライアンス委員会において、コンプライアンスの推進に係る制度の実施状況の把握、点検、評価等を行うとともに、通報事案の解決策の明示、再発防止策の策定を行う。

・ 専門部署の設置の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

・ 内部規程の整備の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

・ 内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

・ 公表の方法

コンプライアンス推進規程及び内部通報制度に関する要綱を京都府公立大学法人のホームページに掲載

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 京都府公立大学法人理事会 病院長は理事として出席 規程に理事会の所掌として明記の上、病院の業務実績等について定期的に報告する等病院業務の監督を実施 ・ 会議体の実施状況（ 年 1 1 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）（ 年 1 1 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ） ・ 公表の方法 京都府公立大学法人のホームページに掲載			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の
情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ） ・ 通報件数（ 年 0 件 ） ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための 方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ） ・ 周知の方法 京都府公立大学法人及び京都府立医科大学附属病院ホームページに掲載 京都府立医科大学コンプライアンス指針に掲載（教職員研修等で周知）

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	④・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 （公財）日本医療機能評価機構、平成28年2月（認定期間：平成28年3月20日～R3年3月19日） ※ 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う審査特例措置により、受審予定月（R3年2月）から一年間認定病院の取り扱いとなります。（R4年2月まで）	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	④・無
・情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページに本院の特定機能病院としての医療提供に係る特色、病院の理念・基本方針各種指定の状況等について掲載し、情報発信を行っている。 また、患者向け広報誌を発行（年3回）し、院内での取組等について、定期的に情報発信を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	④・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 外来では、消化器センター、循環器センター、呼吸器センターなど7つのセンターで、複数診療科が連携して診療対応に当たっている。	